

令和6年度

近畿地方環境パートナーシップオフィス運営等業務

業務実施報告書

令和7年3月25日

特定非営利活動法人 近畿環境市民活動相互支援センター

目次

1	はじめに.....	1
2	業務の目的.....	1
3	実施業務（きんき環境館運営業務）.....	2
	（1）業務実施計画（案）の作成.....	2
	（2）きんき環境館アドバイザー委員会の設置・開催等.....	2
	（3）基本業務.....	4
	① Webサイト等を活用した情報の受発信.....	4
	② 相談対応・対話の場作り等.....	6
	③ 地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進業務.....	15
	④ 全国事業に関わる業務.....	20
	⑤ EPOネットワークとの情報交換会.....	21
	⑥ 施設の維持・管理.....	21
	（4）地域循環共生圏の創造に資するための推進業務.....	22
	① 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業.....	22
	ア 中間支援機能の担い手育成業務.....	22
	イ キックオフミーティング及び中間共有会の開催.....	24
	ウ GEOCが主催する会議等への参加.....	26
	エ 次年度事業の参加団体の審査委員会運営業務.....	26
	オ 卒業団体のフォローアップ調査.....	27
	② 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催.....	28
	③ 地域循環共生圏の創造に係る情報の収集及び提供ならびに関係性構築.....	29
4	実施業務（近畿ESDセンター運営業務）.....	32
	（1）業務実施計画（案）の作成.....	32
	（2）近畿ESDセンター企画運営委員会の設置・開催.....	32
	（3）ESD活動に関する域内情報の収集・発信及びESD活動に関する域内外への情報提供等.....	34
	（4）ESD活動に関する相談・支援窓口.....	34
	（5）近畿ESDセンターに係るパンフレット等発信情報の作成・配布.....	36
	（6）域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供.....	36
	① 「2030学びあいプロジェクト」の企画等.....	36
	② ノウハウの共有と推進に関する方策の検討.....	39
	③ 活動計画の報告.....	39
	（7）ESD活動に関するネットワークの構築.....	39
	① ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催.....	39
	② 地域ESD拠点等のESD活動の支援.....	40
	③ 地域でESDを推進する拠点のニーズ把握.....	41
	（8）全国センターとの連携協力の推進等.....	41
5	その他協働事業（近畿独自事業）.....	42
	（1）近畿事務所開催イベント等の支援・運営等.....	42
	（2）その他事業.....	43
6	令和6年度 きんき環境館・近畿地方ESD活動支援センター業務計画.....	46

1 はじめに

特定非営利活動法人近畿環境市民活動相互支援センター（以下「エコネット近畿」という。）は、近畿地方環境事務所（以下、「近畿事務所」という。）との請負契約に基づき、近畿環境パートナーシップオフィス（以下「きんき環境館」という。）及び近畿地方ESD活動支援センター（以下、「近畿ESDセンター」という。）の運営業務を実施している。本報告書は、令和6年度業務実施計画に基づく令和6年度のきんき環境館及び近畿ESDセンター運営業務（令和6年4月1日（月）から令和7年3月24日（月）までの1年間）の事業内容を報告するものである。

2 業務の目的

近畿事務所では、近畿地方（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県及び和歌山県）を対象に平成17年1月からきんき環境館を設置し運営してきたところである。

また、持続可能な社会の創り手を育成するESDの推進のため、文部科学省と環境省が共同で全国ESD活動支援センター（以下「全国センター」という。）と8つの地方ESD活動支援センター（以下「地方センター」という。）を設置し、第2期ESD国内実施計画に基づくESDの全国的な展開、支援体制の充実等を図るとともに、気候変動を切り口としたESDの取組も進めていくところである。

本業務は、きんき環境館が環境教育等促進法の規定する国の役割を果たすため、また近畿ESDセンターが国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、全国8ブロックに設置されている環境パートナーシップオフィス（以下「EPO」という。）と地球環境パートナーシッププラザ（以下「GEOC」という。）のネットワーク（以下「EPOネットワーク」という。）を活用するとともに、近畿地方の事情を踏まえて各種事業等を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動、多種多様な環境施策への協力及びESD活動等を活性化させることを目的とする。

また、「第5次環境基本計画」（平成30年4月閣議決定）において提唱された、環境・経済・社会の統合的向上を図る「地域循環共生圏」の考え方及び「地域課題を解決し、地域の魅力と質を向上させる地方創生に資する脱炭素」をキーメッセージとして発信している「地域脱炭素ロードマップ」（令和3年6月国・地方脱炭素実現会議決定）の考えに基づき、各地域が自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合う取組を推進し、持続可能な地域づくりを通じて、環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むことを目的とする。

3 実施業務（きんき環境館運営業務）

(1) 業務実施計画（案）の作成

準備会によりきんき環境館アドバイザー委員の助言を受け、「6 令和6年度 きんき環境館・近畿地方ESD活動支援センター業務計画」の通り業務実施計画書を作成した。

日程	内容
4/15	<p><主催・共催打合せ></p> <p>【名称】 きんき環境館アドバイザー委員会 準備会①</p> <p>【参加者】 新川委員、秋田委員、永井委員、近畿事務所</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 きんき環境館</p> <p>【内容】 きんき環境館の事業計画や企画に対する意見やアイデアをいただいた。</p>
4/15	<p><主催・共催打合せ></p> <p>【名称】 きんき環境館アドバイザー委員会 準備会②</p> <p>【参加者】 田口委員、森委員、近畿事務所、浅利委員</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 きんき環境館</p> <p>【内容】 きんき環境館の事業計画や企画に対する意見やアイデアをいただいた。</p>

(2) きんき環境館アドバイザー委員会の設置・開催等

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い関係者の参画を得て事業を推進する 事業実施計画(案)等について議論する
事業総括	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民団体、行政、企業、教育機関等、多様な主体に精通している委員に参加いただいたことで、多面的なアドバイスを獲得することができ、計画策定等に生かすことができた。 年間を通して、委員の積極的なイベントへの参画があり、事例の共有方法やウェブサイトなどの使用方法など具体的な意見を聞くことができた。
	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントの数が多く、見せ方や伝え方について曖昧な部分が見られた。中間支援としてのきんき環境館の成果や役割の整理を行っていく必要がある。 次年度が3ヶ年の最後となるので、それぞれの地域のそれぞれの機能を活かせるモデルづくりなどを検討していく。

日程	内容
5/23	<p><主催開催> 参加者数 6 名</p> <p>【名称】 令和6年度第1回きんき環境館アドバイザー委員会</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 近畿事務所</p> <p>【内容】 きんき環境館の事業計画や企画に対する意見やアイデアをいただいた。</p> <p>【プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 開会、自己紹介 2, 令和6年度業務実施計画の説明 3, 意見交換等 <p>【開催状況】</p>  <p>【主催】 きんき環境館</p>

2/5

<主催開催>

参加者数 6 名

【名称】 令和6年度第2回きんき環境館アドバイザー委員会

【形態】 対面

【場所】 近畿事務所

【内容】 きんき環境館事業進捗および来年度事業に対する意見やアイデアをいただいた。

【プログラム】 1, 開会、自己紹介
2, 令和6年度事業報告
3, 意見交換等

【開催状況】



【主催】 きんき環境館

<アドバイザー委員会名簿> 敬称略・五十音順

所属等	役職	氏名
株式会社イマゴト	代表取締役	秋田 大介
大阪公立大学 現代システム科学研究科	准教授	黒田 桂菜
成安造形大学 未来社会デザイン共創機構	講師	田口 真太郎
社会福祉法人大阪ボランティア協会	常務理事/事務局長	永井 美佳
同志社大学	名誉教授	新川 達郎
Future Creation Lab.オブリガード	代表	森 伊知郎

(3) 基本業務

① Webサイト等を活用した情報の受発信

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> • スマホ・タブレット対応のWebサイトに変更する • きんき環境館の事業概要が理解できるよう、各事業の関係性がわかる工夫を行う • 媒体毎のターゲットや掲載内容の整理を行う 																									
事業総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> • 事業概要が伝わりやすいようなデザインのパンフレットを作成した。親しみやすいデザインにすることで、手に取ってもらいやすくなった。 • 年度初めからメルマガへ掲載依頼のあった件を積極的にFacebookへ投稿したため、インタラクション数が153から245に増加した。(前年比1.6倍) • メルマガの登録人数が、昨年比べて959部増加した。 <table border="1" data-bbox="555 517 1378 840"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>件数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>きんき環境館Webアクセス数</td> <td>140,654</td> <td>年間閲覧数</td> </tr> <tr> <td>メルマガ登録者数</td> <td>4,367</td> <td>最新登録者数</td> </tr> <tr> <td>メルマガ発行回数</td> <td>24</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機関誌発行部数</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>メルマガへの投稿依頼数</td> <td>186</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Facebookの投稿に対するいいね、共有の数</td> <td>245</td> <td></td> </tr> <tr> <td>YouTube閲覧数</td> <td>422</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(令和7年3月22日現在)</p>	項目	件数	備考	きんき環境館Webアクセス数	140,654	年間閲覧数	メルマガ登録者数	4,367	最新登録者数	メルマガ発行回数	24		機関誌発行部数	0		メルマガへの投稿依頼数	186		Facebookの投稿に対するいいね、共有の数	245		YouTube閲覧数	422	
	項目	件数	備考																							
きんき環境館Webアクセス数	140,654	年間閲覧数																								
メルマガ登録者数	4,367	最新登録者数																								
メルマガ発行回数	24																									
機関誌発行部数	0																									
メルマガへの投稿依頼数	186																									
Facebookの投稿に対するいいね、共有の数	245																									
YouTube閲覧数	422																									
課題	<ul style="list-style-type: none"> • パンフレットを効果的に使用するため、送付先・配架依頼先を丁寧に検討する必要がある。 • 現在のウェブサイトスマホ・タブレット対応することは工数がかかることが判明し、デザインを含めウェブサイト新しく作り直すことが必要となった。パンフレットとウェブサイト統一感を出すためにも、パンフレット改定後にウェブサイトの改定を実施する。 • きんき環境館Webアクセス数目標前年比10%アップに対して、140,654(前年比-56%)きんき環境館ウェブサイトの更新が行われていない期間が長かった(年度内最初の更新は6月7日、その次は8月20日と、2ヶ月以上更新のない期間があった)。情報が更新されないことにより、定期的に関覧していたユーザーが利用しなくなるなど、ユーザーが離れたことが推測される。その結果、きんき環境館のウェブサイトへのアクセス数は増加しなかった。現状では、きんき環境館主催のイベントがないと更新は行われませんが、更新頻度が偏らない仕組みを検討する必要がある。 • メルマガの掲載依頼が少ない時期があり、メルマガの情報量に偏りが生じた。偏りを起こさないためにも、きんき環境館のメルマガの存在を周知する必要がある。また、情報が多すぎる際の対策も検討する必要がある。 																									

日程	内容
4/10	メールマガジン 第453号(2024年4月前半号) 発行部数:3,106部
4/24	メールマガジン 第454号(2024年4月後半号) 発行部数:3,152部
5/15	メールマガジン 第455号(2024年5月前半号) 発行部数:3,155部
5/29	メールマガジン 第456号(2024年5月後半号) 発行部数:3,160部
6/12	メールマガジン 第457号(2024年6月前半号) 発行部数:3,197部
6/26	メールマガジン 第458号(2024年6月後半号) 発行部数:3,197部
7/10	メールマガジン 第459号(2024年7月前半号) 発行部数:3,201部
7/24	メールマガジン 第460号(2024年7月後半号) 発行部数:3,197部
8/14	メールマガジン 第461号(2024年8月前半号) 発行部数:3,204部
8/28	メールマガジン 第462号(2024年8月後半号) 発行部数:4,003部
9/11	メールマガジン 第463号(2024年9月前半号) 発行部数:3,869部
9/25	メールマガジン 第464号(2024年9月後半号) 発行部数:3,871部
10/9	メールマガジン 第465号(2024年10月前半号) 発行部数:3,197部
10/23	メールマガジン 第466号(2024年10月後半号) 発行部数:4,028部
11/13	メールマガジン 第467号(2024年11月前半号) 発行部数:4,028部
11/27	メールマガジン 第468号(2024年11月後半号) 発行部数:4,029部
12/11	メールマガジン 第469号(2024年12月前半号) 発行部数:4,031部

12/25	メールマガジン 第 470 号(2024 年 12 月後半号) 発行部数:4,031 部
1/15	メールマガジン 第 471 号(2025 年 1 月前半号) 発行部数:4,034 部
1/29	メールマガジン 第 472 号(2025 年 1 月後半号) 発行部数:3,978 部
2/12	メールマガジン 第 473 号(2025 年 2 月前半号) 発行部数:3,978 部
2/26	メールマガジン 第 474 号(2025 年 2 月後半号) 発行部数:3,978 部
3/12	メールマガジン 第 475 号(2025 年 3 月前半号) 発行部数:3,978 部

② 相談対応・対話の場作り等

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> 相談終了後の進捗確認について方策を検討し、試行する 令和5年度の参加者をベースに引き続き対話を深める 手法の学びに留まらず、試行実施の支援を行う 	
事業総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> 相談件数に関して、今年度は対応後に内容を精査したため、20件だった。 それぞれの相談に対し真摯に対応した結果、複数回相談に来てくれた方もおり、相談者からの信頼度が向上していることが分かる。また、相談に来てくれた方がきんき環境館のイベントに複数回参加していることから、きんき環境館への相談が相談者にとって一定の成果として感じられており、きんき環境館の価値が上がっている。 下記は相談内容の一例 <J社> 1度目の来館の際に相談を受けたイベント企画の内容について、アドバイスをを行った。イベント企画の進捗確認を行ったところ、反響があったようで、きんき環境館からのアドバイスがよかったとの声があり、2度目の来館につながった。2度目の来館の際にイベント企画の広報支援を行った。信頼関係が築けた結果、イベントへの参加や情報共有など、今現在も関係構築ができています。 <K市環境政策課> 1度目の相談を受けた際に、環境関連の教材情報を提供した。後に、オンラインで詳しいヒアリングを行い、そもそもの企画の構成に関してアドバイスをを行った。企画の詳細が決まってきた段階で、更に詳しい情報提供を行うことを伝えた。今後も定期的に連絡等を取り、動向を追っていく予定である。 対話の場ごとに、同じ課題感や問題を持っている人同士を集めたことにより、事例共有や情報収集など同じ目線をもつ人同士のネットワーク構築に役立てた。また、参加者から今後も継続して開催してほしいなどの意見もあり、ネットワーク構築や情報交換の場づくりが今後も求められていると認識できた。 マルチセクターボードについて、前年度の参加者が引き続き今年度も多数の参加があった。関係性の構築もでき、対話も行うことができたが、具体的な行動に向けた動き出しはできていない。 気候市民会議では、自分たちが住むまちの中でそれぞれができる行動、社会や行政で必要な取組などについて市民、行政一体となり、今後の在り方などについてファシリテーションを取り入れた対話の場として、有効に機能した。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 相談対応数が前年度より減少しており、より多くの方に相談者としての認知を広げる必要がある。 相談対応のフォローアップはある程度実施できたが、イベント参加者への具体的なアクションに対するフォローアップが十分でない。イベント直後の満足度アンケート以外にも、参加者へのフォローアップ方法を検討する必要がある。相談対応についても、引き続きフォローアップを行い、相談者のニーズの変化を把握する必要がある。 寄せられた相談については、内容の精査も重要であるが、相談者の声やニーズ把握をするためにも、記載方法を変更するなど検討が必要である。

A 相談対応

属性	一般市民	NGO/NPO 市民団体	行政(官公 庁)	企業(事業 者)	学校/専門 家等	環境系施 設等	計
件数	0	9	2	9	0	0	20

(令和7年3月22日現在)

B 対話の場作り

マルチセクターボード

日程	内容	
8/22	<p><主催開催></p> <p>【名称】 マルチセクターボードEPO①「現場からのアイデア」</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 きんき環境館</p> <p>【内容】 きんき環境館のビジョン及び事業について説明を行った。きんき環境館が地域で支援の試行実施を行う際に、どのようなニーズがあるのか見えていないことが課題だったため、それに対する意見交換を行った。 中間支援組織との連携事業を実施した方がいいなど、具体的な行動のイメージがついた。</p> <p>【主催】 きんき環境館</p> <p>【プログラム】 1, きんき環境館ビジョン、事業計画の説明 2, 参加者自己紹介、意見交換</p> <p>【開催状況】</p> 	参加者数:13名
12/19	<p><主催開催></p> <p>【名称】 マルチセクターボードEPO②「流域思考を持つ人の育成・配置」</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 きんき環境館</p> <p>【内容】 活動・研究内容や課題の共有、きんき環境館への期待などを議論した。 地域の団体等における、人材の集め方や育成及び、その後の就職等を含めた人材の配置について色々な業種に関する課題を出し合い、きんき環境館として、個別に相談をしてもらうことやつながる機会の創出、が重要だと認識した。</p> <p>【主催】 きんき環境館</p> <p>【プログラム】 1, 出席者より「人の育成・配置」に限定した活動紹介と実践における課題抽出 2, 意見交換 3, きんき環境館の地域支援の方向性について説明</p>	参加者数：7名

政策コミュニケーション

日程	内容	
4/19	<p><主催開催></p> <p>【名称】 気候市民会議の多様な開催を考える・その3</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 大阪大学中之島センター</p> <p>【内容】 気候市民会議の開催を考えている参加者の企画案について意見交換を行った。</p> <p>【主催】 大阪大学 CO デザインセンター、きんき環境館</p>	参加者数:15名

	<p>【共 催】 公共圏における科学技術・教育研究拠点 (STiPS)、大阪大学社会技術共創研究センター (ELSI センター)、近畿事務所</p> <p>【プログラム】 1, 開会、趣旨説明 2, 参加者からの企画提案および話題提供 3, 参加者意見交換</p> <p>【開催状況】 </p>
6/24	<p><主催開催> 参加者数:10名</p> <p>【名 称】 こどもの未来と地球温暖化問題を語り合うカフェ</p> <p>【形 態】 対面</p> <p>【場 所】 a little house (兵庫県西宮市)</p> <p>【内 容】 1, ミニ講義 気候変動って？ スピーカー 藤井紗菜(環境省近畿地方環境事務所再エネ促進区域推進専門官)</p> <p> 2, ワークショップ ファシリテーター 越希美江氏(株式会社BEYOND WORDS 代表取締役)</p> <p>【主 催】 NPO 法人 a little</p> <p>【共 催】 近畿事務所、きんき環境館</p>
11/20	<p><主催開催> 参加者数:18名</p> <p>【名 称】 プラスチックごみ対策に取り組む地方自治体職員情報交換会</p> <p>【形 態】 対面</p> <p>【場 所】 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)</p> <p>【内 容】 プラごみのリデュース(発生抑制)に資する事例紹介と意見交換を行った。 他の自治体との意見交換を通じ、いくつかの自治体は地域の課題解決に意識を向け始めた。自治体Kでは、プラスチックごみ対策に関する意見交換の場づくりが検討されていることも報告されており、具体的な行動に向けた動きが確認されている。さらに、リユース食器の貸し出し等を行っているNPO法人を事例紹介として招いたことで、各自自治体が動き方やどこに頼めばいいのかなど、具体的なイメージにつながった。</p> <p>【プログラム】 1, 趣旨説明、アンケート結果報告 2, 事例紹介① 滋賀県 琵琶湖環境部 循環社会推進課 3, 事例紹介② NPO法人 地域環境デザイン研究所ecotone 4, 事例紹介③ 亀岡市 環境先進都市推進部 環境政策課 5, 参加者による情報交換会(2回)、全体共有</p>

	【開催状況】	
12/15	<会議参加> 【名称】 大阪いばらき気候市民会議 【参加者】 大阪大学、京都女子大学、大阪いばらき気候市民会議実行委員会 【形態】 対面 【場所】 茨木市文化・子育て複合施設 おにクル 【内容】 昨年度の気候市民会議の開催を考える会から派生した茨木市での気候市民会議開催に向けたプロジェクトチームに対し、適宜企画に対する助言などを行った。今回の企画では参加者意見交換でファシリテーションによる支援を行った。試行実施について当日のファシリテーション等を通して、支援を行うことができた。	参加者数:37名

C 各種会合への参加等（情報収集）

日程	内容
4/8	<ヒアリング> 【目的】 イベント参加者との情報交換 【参加者】 EMIELD 株式会社 【形態】 対面 【場所】 きんき環境館 【内容】 EMIELD 株式会社の「SDGs パートナースhip事業」について説明を受けた。
4/23	<イベント参加> 【名称】 奈良市みらい価値共創プロジェクト研究<第2期>説明会 【目的】 奈良市周辺における企業や事業構想大学院大学の動きについて情報収集を行う 【参加者】 企業関係者 20 名程度 【形態】 対面 【場所】 大和ハウスグループみらい価値共創センター(奈良市) 【内容】 奈良市役所職員、事業構想大学院大学教員より奈良市みらい価値共創プロジェクト研究について説明が行われた。
4/30	<ヒアリング> 【目的】 天理市における中間支援主体を近畿事務所と繋ぐ 【参加者】 一般社団法人みんなとふるさと、近畿事務所 【形態】 対面 【場所】 近畿事務所 【内容】 天理市福住でのオーガニックビレッジづくりの概要、取組の説明を受けた。
5/2	<ヒアリング> 【目的】 環境に関する事業について情報の収集 【参加者】 株式会社フューチャースピリッツ 【形態】 対面 【場所】 きんき環境館 【内容】 フードロス削減に取り組む目的で製作したアプリ「ごはんのわ」についての事業ほかについて情報提供を受けた。

5/21	<p><イベント参加></p> <p>【名称】 脱炭素地域づくり推進に向けた第2回中間支援交流フォーラム</p> <p>【目的】 長浜市、滋賀県の動きを事例に、中間支援体制・活動のあり方を論議し、体制強化に向けて必要になる取組を導き出す</p> <p>【参加者】 エネシフ湖北、長浜市、気候ネットワーク、滋賀県立大学、地方EPO、地方各地球温暖化防止活動推進センター、IGES、産総研他大学等研究者、地域エネルギー事業者、GEOC、環境省、近畿地方事務所</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 長浜市商工会議所</p> <p>【内容】 【第1部】第1回議論の振り返り、自己紹介、各地の中間支援に関する動きの共有 【第2部】グループディスカッション:長浜市、滋賀県の動きを事例に、中間支援体制・活動のあり方を議論 【第3部】グループディスカッション:中間支援活動・組織の強化に向けた今後の動き</p>
5/22	<p><現地見学></p> <p>【目的】 農業廃棄物や食品残渣などを炭化することで地域課題を解決に導く活動をしている高槻バイオチャーエネルギー研究所長の取組を聞き、中間支援機能を持つプレイヤーとしての繋がりを持つ</p> <p>【参加者】 高槻バイオチャーエネルギー研究所</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 高槻バイオチャーエネルギー研究所</p> <p>【内容】 炭化炉の見学及び、炭化の仕組みと導入・炭活用事例を伺った。</p>
5/24	<p><セミナー参加></p> <p>【名称】 「地域のための気候変動対策・自然再興とは？」第1回 小型風力発電をめぐる課題と自治体の対応</p> <p>【目的】 地域における自然資本を活かしたまちづくりにおける課題の把握</p> <p>【参加者】 ウェビナー視聴者140名</p> <p>【形態】 オンライン</p> <p>【講師】 藤井 康平氏(北星学園大学経済学部経済学科)</p> <p>【内容】 風力発電や太陽光発電などの施設設置によるトラブルの分析と、自治体の条例・ガイドラインによる対応事例の紹介。</p>
6/28	<p><セミナー参加></p> <p>【名称】 「地域のための気候変動対策・自然再興とは？」第2回 エネルギー貧困とは何か?～誰ひとり取り残さない脱炭素社会への移行に向けて</p> <p>【目的】 地域における自然資本を活かしたまちづくりにおける課題の把握</p> <p>【参加者】 ウェビナー視聴のため参加者総数は不明</p> <p>【形態】 オンライン</p> <p>【講師】 上園 昌武氏(北海学園大学経済学部)</p> <p>【内容】 エネルギーに生活費をかけられない層のさらなる貧困化の社会的課題と、海外におけるデータ集約と対応政策の事例紹介。</p>
7/4	<p><セミナー参加></p> <p>【名称】 企業活動とネイチャーポジティブ「自然資本の活用と保全セミナー」</p> <p>【目的】 EPO九州における自然資本イベントの事例を知る</p> <p>【参加者】 ハイブリッド形式のため詳細不明</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 西日本総合展示場 エコテクノ展内 セミナー会場B</p> <p>【講師】 小林 悟志氏(環境省九州地方環境事務所自然環境整専門官) 藤久保 敦士氏(コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 コミュニケーション戦略統括部サステナビリティリレーション部) 増井 太樹氏(公益財団法人阿蘇グリーンストック) 川畑 友知氏(山川町漁業協同組合)</p> <p>【内容】 ネイチャーポジティブに関する基礎知識及び各主体の取組事例紹介。</p>
7/23	<p><セミナー参加></p> <p>【名称】 「再生可能エネルギー中間支援組織」に関するワークショップ(勉強会)</p> <p>【目的】 中間支援組織の最新事例を知り、その役割と機能について知見を得る</p> <p>【参加者】 早稲田大学の研究者等、GEOC、地方EPO</p>

	<p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 早稲田大学早稲田キャンパス</p> <p>【講師】 古屋将太氏(特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所)</p> <p>【内容】 再生可能エネルギー普及のスピードとスケール 再生可能エネルギー中間支援組織の役割と機能 ドイツの中間支援組織 事例(KNE,ThEGA) 日本の中間支援事例(にかほ市風力ゾーニング)</p>
7/29	<p><現地見学></p> <p>【目的】 Local Coopの取組について情報収集を行う</p> <p>【参加者】 近畿農政局、近畿厚生局、アマタ(株)、日本郵便、奈良市、近畿地方事務所、一般社団法人TOMOSU、奈良コクリ！実行委員会</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 月ヶ瀬行政センターなど</p> <p>【内容】 奈良市が関わっているLocal Coopの取組について説明を受けた。また、Localcoopが運営する施設を視察した。</p>
8/8	<p><ヒアリング></p> <p>【目的】 万博会場運営におけるボランティア活用に関する情報交換</p> <p>【参加者】 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 会場運営局 運営管理部 運営管理課</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 きんき環境館</p> <p>【内容】 万博会場における、ごみ分別の普及啓発とその後の処理に係る人員確保の状況と、イベントにおけるごみ分別普及啓発ボランティアへの対応の工夫について情報交換した。</p>
8/9	<p><ヒアリング></p> <p>【目的】 着地型観光についての情報収集</p> <p>【参加者】 株式会社ライフサポート関西</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 きんき環境館</p> <p>【内容】 着地型観光の企業を探しているニーズに対応するための情報収集。</p>
8/21	<p><ヒアリング></p> <p>【目的】 コーディネート機能を有する人・組織かどうかを確認する。</p> <p>【参加者】 (起業プラザひょうご運営団体NPO法人コミュニティリンク)理事</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 起業プラザひょうご</p> <p>【内容】 インキュベート段階の新興企業に向けたコワーキングスペース等を運営している。会員及び入居企業への情報提供等をはじめ、施設の運営状況について情報収集した。きめ細かな支援活動の実態を確認した。</p>
8/28	<p><ヒアリング></p> <p>【目的】 近畿農政局及びきんき環境の取組の情報交換及び連携検討</p> <p>【参加者】 近畿農政局和歌山県拠点総括農政推進官</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 きんき環境館</p> <p>【内容】 みどりの食料システム戦略や農中森力基金など、地域循環共生圏事業との類似性を確認し、引き続き情報交換を行いながら、同じ目的に沿ってできることがあれば、和歌山県内での連携取組を検討することを確認した。</p>
8/28	<p><ヒアリング></p> <p>【目的】 自然素材で作られ、環境負荷が少ない蜜蝋製ラップの普及状況と普及促進策について情報収集した。</p> <p>【参加者】 一般社団法人日本エコラップ協会(構成団体から3名)</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 きんき環境館</p> <p>【内容】 食品ラップをめぐる環境負荷について意見交換するとともに、蜜蝋製ラップおよびそれを活用したワークショップに関心をもってくれそうな消費者グループ等の紹介を行った。</p>

8/29	<p><セミナー参加></p> <p>【名称】 シンポジウム「第六次環境基本計画と今後の環境政策について」</p> <p>【目的】 第六次環境基本計画の概要を把握する。</p> <p>【参加者】 ウェビナー視聴のため参加者総数は不明</p> <p>【形態】 オンライン</p> <p>【講師】 大倉 紀彰氏(環境省大臣官房地域脱炭素政策調整担当参事官 兼 政策調整官(環境基本計画担当)) 山崎 清氏(株式会社価値総合研究所) 本巢 芽美氏(名古屋大学 大学院環境学研究科)</p> <p>【内容】 環境基本計画の背景、これからの方針の説明を受けた。ウェルビーイングを向上させるプロセス、またウェルビーイングと再エネ導入の関係性について紹介された。最後に、再エネと地域とのかかわりと地域で再エネを進めるための課題を共有された。</p>
9/18	<p><セミナー参加></p> <p>【名称】 「地域のための気候変動対策・自然再興とは？」第3回 再生可能エネルギーで地域が豊かになるために～「漏れバケツ」からの脱却に向けて</p> <p>【目的】 地域における自然資本を活かしたまちづくりにおける課題の把握</p> <p>【参加者】 ウェビナー視聴のため参加者総数は不明</p> <p>【形態】 オンライン</p> <p>【講師】 歌川 学氏(国立研究開発法人産業技術総合研究所エネルギー・環境領域)</p> <p>【内容】 北海道及び北海道内の主要都市における光熱費、化石燃料使用量、再エネ量、再エネポテンシャル、設備費、再エネによる売電収入などの現在と将来(可能性)をグラフで比較し、再エネによる売電事業や省エネ設備投資、車や電気機器類の転換を地域企業・主体が担うことで、地域の経済発展と脱炭素の同時解決が図れることを説いた。</p>
11/5	<p><セミナー参加></p> <p>【名称】 脱炭素地域づくり中間支援組織の提言案に関する説明・意見交換会</p> <p>【目的】 中間支援組織に関する情報収集</p> <p>【参加者】 滋賀県立大学、公益財団法人北海道環境財団、京都府地球温暖化防止活動推進センター、公益財団法人地球環境戦略機関、龍谷大学、NPO法人気候ネットワーク、地方EPOほか25名程度</p> <p>【形態】 オンライン</p> <p>【内容】 12/4に開催される「第3回中間支援交流フォーラム」において公表される提言案について企画チームより説明を受け、第1回、第2回のフォーラム参加メンバーが質問や意見を伝えた。</p>
11/6	<p><イベント参加></p> <p>【名称】 第7回淀川河口域を考える会</p> <p>【目的】 マルチセクターボードEPO①に係る情報収集</p> <p>【参加者】 登壇者関係、漁業、魚加工品企業、教育関係者ほか70名程度</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 第1大阪港ビル8階会議室</p> <p>【内容】 淀川河口域で実施している取組の事例紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市漁協「第1～6回淀川河口域を考える会」 ・国交省淀川河川事務所「淀川河口域における環境保全の取組」 ・大阪府環境農林水産部「豊かな大阪湾を目指して」 ・海遊館「海遊館の湾奥部での環境学習の取組について」 ・大阪料理会「シジミ出汁の抽出方法による官能評価」 ・大阪公立大学国際機関教育機構「聖牛再誕～伝統河川工法活用のすすめ～」 ・大阪市立築港中学校「海老江干潟での石干見体験報告」
11/6	<p><セミナー参加></p> <p>【名称】 JTB地域交創プロジェクト 地域の未来を創る地方創生セミナー</p> <p>【目的】 地方創生に関するデジタルデータの様々な活用方法を学ぶ</p> <p>【参加者】 ウェビナー視聴のため参加者不明</p> <p>【形態】 オンライン</p> <p>【講師】 畠山美帆氏(株式会社JTB)、平井孝明氏(ドーモ株式会社)、西本慎氏(株式会社電通デジタル)</p>

	<p>【内 容】 地方創生を実施する際に、マーケティングの観点でどのようなデータを使って分析を行うべきか、またデータの分析の際に留意する点等を学んだ。</p>
11/19	<p><セミナー参加></p> <p>【名 称】 令和6年度近畿地域包括ケア等推進省庁横断セミナー</p> <p>【目 的】 各省庁の「まちづくり・地域づくり」に関する施策を学び地域行脚等、業務に生かす</p> <p>【参加者】 まちづくり・地域づくりにかかわる自治体・地域包括支援センター職員・事業者・団体等の方々、近畿事務所</p> <p>【形 態】 オンライン</p> <p>【内 容】 普段は関わる機会が少ない様々な省庁の施策を知ることができ、新しい情報や他の地域がどのように各関係省庁と連携しているのか、色々な工夫が見ることができ、知見が深まった。</p>
11/26	<p><セミナー参加></p> <p>【名 称】 令和6年度 農村RMO推進フォーラム(近畿農政局)</p> <p>【目 的】 農村RMOを主体とした、持続可能な地域づくりに関わる施策等を学ぶ</p> <p>【参加者】 農村RMOモデル形成支援実施地区、都道府県及びその出先機関・市町村の農業・福祉・社会教育・地域づくり等の担当者、JA、土地改良区、社会福祉協議会、公民館関係者、地域おこし協力隊の方々、近畿事務所</p> <p>【形 態】 オンライン</p> <p>【内 容】 地域の維持・活性化に取り組む各種組織、団体等が組織設立、運営に係るノウハウや課題等について事例を交えたディスカッションを行った。海外事例のお話しなどもあり、日本の進んでいるところやそうでないところの理解が深まった。また、農村RMOに取り組んできた地区やこれから農村RMOに取り組みたい地区へいかに伴走支援を行えばいいのか、また中間支援組織の設立・取組・活動、自治体の体制や役割等を知るきっかけになった。</p>
12/4 12/5	<p><セミナー参加></p> <p>【名 称】 第3回中間支援交流フォーラム・おひさまシンポジウム</p> <p>【目 的】 日本における中間支援組織(エネルギーエージェンシー等)の最新動向を知り、各地のプレイヤーや有識者と繋がりを作る</p> <p>【参加者】 12/4: 信州大学、滋賀県立大学、NPO法人気候ネットワーク、公益財団法人地球環境戦略機関、産業技術総合研究所、地域新電力会社、エネルギー関連の中間支援団体、地球温暖化防止活動推進センター、長浜市、青森県、浦幌町等、環境省、地方EPOほか52名 12/5: 上記プラス、京都大学、長野県のプレイヤーや飯田自然エネルギー大学卒業生ほか(定員:120名(オンライン200名)※参加者を数えきれないため、定員を記載)</p> <p>【形 態】 対面</p> <p>【場 所】 飯田市公民館</p> <p>【講 師】 12/4 滋賀県立大学准教授 平岡俊一 氏ほか 12/5 京都大学大学院 経済学研究科教授 諸富 徹氏ほか</p> <p>【内 容】 12/4は中間支援に関する各地の動きの情報共有や、環境省あり方検討のモデル事業を実施中の地域からの中間報告、ネットワーク組織の設立に向けた意見交換などを行った。 12/5は講演による事例共有や、再エネ関係者によるディスカッションや中間支援に関するディスカッションで知識を深めた。</p>
2/4	<p><現地見学></p> <p>【名 称】 梅小路公園 朱雀の庭・いのちの森 現場視察</p> <p>【目 的】 共生サイトに登録された場所の視察を行い、指定管理者と情報交換を行う</p> <p>【参加者】 公益財団法人 京都市都市緑化協会、COSKYOTO株式会社、近畿事務所</p> <p>【形 態】 対面</p> <p>【場 所】 梅小路公園 朱雀の庭・いのちの森</p> <p>【内 容】 生物多様性保全推進支援事業について情報交換を行った。</p>
2/4	<p><現地見学></p> <p>【名 称】 きょうと生物多様性センター 現場視察</p> <p>【目 的】 現場視察と、課題などの困りごとの情報交換</p> <p>【参加者】 きょうと生物多様性センター、近畿事務所</p> <p>【形 態】 対面</p>

	<p>【場 所】 きょうと生物多様性センター</p> <p>【内 容】 きょうと生物多様性センターの取り組み内容を伺い、困りごとについてもヒアリングした。</p>
2/14 2/15	<p><現地見学></p> <p>【名 称】 SDGs地域ミーティングささやま2025</p> <p>【参加者】 丹波篠山市で活動または関係する団体・個人、実践者</p> <p>【形 態】 対面</p> <p>【場 所】 ユニトピアささやま</p> <p>【内 容】 丹波篠山の自然環境や地域課題の解決・取組の活性化に向けて、実践者による相互の情報交換と地域拠点としてのユニトピアささやまの活用を検討した。</p>

③ 地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進業務

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> 各イベント等を実施する際に行政や中間支援主体との連携を意識する (単独でのイベント実施等を極力避ける) 	
事業総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> プラスチックごみゼロ宣言自治体などを対象にした実態調査では、共通の課題であるプラスチックごみ問題への取組実態や困りごとを尋ねるアンケートを、近畿圏内の府県・市町村(200以上)に送付し、67自治体(組合含む)から回答を得た。回答自治体の6分の5から、プラスチックごみに関する困りごとが寄せられ、困りごとに対応する先進事例紹介を含めて対話の場を企画する必要性があることが分かった。地域の課題解決に向けた参考情報の共有や、府県を超えた横断的な協力関係の構築に寄与した。 インタビュー企画では、現地に伺うことによって、地域の特性や活動を理解し、動画にすることができた。また、地域の活動団体に対しても、支援を行っている団体を知るきっかけとしてもらうアピールの場として活用いただくことができた。 全体を通して、様々な分野の方と連携することにより、今までつながることのなかった主体の方々と情報交換できる機会が多かった。他省庁の施策をしっかり把握していくことで、きんき環境館の価値創造につながり、さらには支援している団体への幅広い情報提供、また、新たなモデルケースの形成などにも非常に有効であることが明らかになった。 多様な情報や事例を収集し、プラットフォームの形成に携わり、たくさん人材や組織・団体同士をつなぐことなどがきんき環境館に求められている機能だということが再確認できた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 行政や自治体が感じている課題と、企業や地域住民の感じている課題に差があり、今後きんき環境館としてこの乖離をどう埋めていくのか、今後も検討していく必要がある。

日程	内容	
9/17	<p><主催開催></p> <p>【名称】 ローカルSDGsユースネットワーク拡大作戦</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 クロスパル高槻</p> <p>【内容】 ユースによる活動の事例紹介やユース活動支援団体による事例紹介、参加者交流を通してユースの同世代のつながりと世代を超えたつながりを構築し、取組の広がりに向けた一助とする。</p> <p>ユースと連携協働したい主体が、ユースとつながるための場づくりを行い、ユースの取組の活発化を図ることができた。また、学内等に閉じているユースの活動主体が地域と連携したユースの取組を知ることで、ローカルSDGsの実現につながるユースの取組を増やすことにつながった。</p> <p>【プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 趣旨説明 ユース活動の支援事例紹介 奈良市総合政策課、OSINTech、一般社団法人インパクトラボ、次世代ユネスコ国内委員会 ユース活動団体の事例紹介 奈良教育大学ユネスコクラブ、エコ〜るど京大、滋賀県立大学近江楽座「政所茶レン茶“ー”」、八尾廃校SATODUKURI BASE学生ボランティア 参加者ネットワーキング 	参加者数:42名

	<p>【開催状況】</p>	
<p>10/11</p>	<p><主催開催> 【名称】 プラスチック新時代に向けた準備と事業活動への影響 【形態】 対面 【場所】 大阪産業創造館 【内容】 国際プラスチック条約の交渉状況をはじめ、プラスチック問題への国内外の取組について、公益財団法人廃棄物・3R研究財団大塚氏と、同志社大学原田准教授による講義の後、質疑応答および参加者間の議論を行った。 関心を持つことのないプラスチック関連国際条例の現状と、西洋諸国の先進事例紹介で、これからの日本がいかに関与すべきかその課題が理解できたなど非常に有意義な時間だったとの声が多数あり、前年度に出来ていなかった新たな制度を伝えるいい機会になった。 【主催】 きんき環境館、近畿事務所 【プログラム】 1, 講演 I 「国際プラスチック条約の合意内容や国内の法令等への影響」講師：公益財団法人廃棄物・3R研究財団資源循環調査センター上席研究員 大塚直樹氏 II 「サーキュラーエコミーの実現に向けた世界の動向やビジネスチャンス」講師：同志社大学経済学部准教授 原田禎夫氏 2, 参加者ワーク 【開催状況】</p>	<p>参加者数：28名</p> 
<p>11/4</p>	<p><主催開催> 【名称】 琵琶湖から生まれ、未来につながるライフスタイル 【形態】 対面 【場所】 草津市立市民総合交流センター(キラリエ草津)</p>	<p>参加者数：23名</p>

【内 容】 地域で活動する8団体がそれぞれの抱える問題等を持ち寄り、解決・改善に向けた課題等を出し合うとともに、人的交流を深める。
 地域で活動している団体に多数の参加があり、課題共有や意見交換を行う場を設け、府県境を超えた、あらたな連携や活力を生み出す機会を創出できた。

【共 催】 しがローカルSDGs研究会

- 【プログラム】**
- 1, 開会、趣旨説明
 - 2, 事例紹介①NPO法人環境市民
 - 3, 事例紹介②NPO法人プロジェクト保津川
 - 4, 事例紹介③NPO法人いけだエコスタッフ
 - 5, 事例紹介④アジェンダ21すいた資源部会
 - 6, 共通課題の議論
 - 7, 事例紹介⑤くうのるくらしの創造舎
 - 8, 事例紹介⑥ピワコゼロウェイスト
 - 9, 事例紹介⑦Linkしが
 - 10, 事例紹介⑧しがローカルSDGs研究会
 - 11, 共通課題の議論
 - 12, ふりかえり

【開催状況】



12/8

<主催開催>

参加者数:4名

【名 称】 有限責任事業組合まちの人事企画室インタビュー

【形 態】 対面

【場 所】 京丹後市未来チャレンジ交流センター (roots)

【内 容】 1つの中間支援主体の形として地域で活動する他の団体の参考にしてもらうため、地域で活躍する中間支援機能を有する団体の活動内容を発信する。
 rootsという場を通じて、高校生の想いを実現しながら、地域の魅力的な大人とつなぐことで、地域の活性化にもつなげている取組についてインタビューを行った。
 rootsの活動内容が伝わる動画を作成し、一般公開することで、多くの人に中間支援主体の取組を知ってもらう機会となった。

【主 催】 きんき環境館

【開催状況】



12/19

<主催開催>

参加者数:48名

【名称】

KSP分科会第5回イベント「持続可能な地域づくり×協働を学ぶ」

【形態】

ハイブリッド

【場所】

大阪市立総合生涯学習センター(梅田)

【主催】

環境省近畿地方環境事務所

【協力】

近畿経済産業局、近畿財務局

【内容】

参加者自身の活動が果たす役割を認識するきっかけになるような、中間支援機能の概要や事例を紹介、さらに参加者同士の交流の場を提供し、ステークホルダー同士の連携を促すネットワーキングを行い、グリーンでレジリエントな社会の実現を目指す知見を増やす。

「各地域が行っている支援機能や新しいアイデアを自分事として捉えるいい機会になった」という自治体の担当者の声や、「先進事例として全国に発信していきたい」という前向きな意見もあった。近畿地方で活躍している中間支援や地域の人々が全国の人に認知され、地域の活性化につながっていると実感できた。また、「先進事例・手法を学び、地域の人に対する向き合い方など、新しい知識を得るきっかけになったので、今後も参加したい。」「きんき環境館の重要性を感じた」という声もあった。

【プログラム】

- 1, 開会、趣旨説明
- 2, 基調講演「持続可能な地域づくりにおいて中間支援組織に期待されるもの」滋賀県立大学 平岡俊一氏
- 3, 事例紹介1「自分ごと出来る実は身近な地域エネルギー」エネシブ湖北 清水広行氏
- 4, 事例紹介2「NPO 中間支援組織ってなにやってるん？」わかやまNPOセンター 志場久起氏
- 5, トークセッション
- 6, グループディスカッション

【開催状況】



1/21

<主催開催>

参加者数：62名

- 【名称】 KSP分科会第6回イベント「歩いて行ける多機能拠点「地域の集いの場」から創る未来の暮らし」
- 【形態】 ハイブリッド
- 【場所】 QUINTBRIDGE
- 【主催】 環境省近畿地方環境事務所
- 【協力】 近畿経済産業局、近畿財務局、近畿総合通信局、近畿農政局、近畿地方整備局、近畿運輸局

【内容】 福祉・通信・交通・住宅・食・資源・エネルギー等の地域内循環を活用した地域協働体構築の基点となる具体的事例と関連する各省庁の事例や支援策を紹介し、実現に向けたヒントを提供した。

「同じ目的を違う手法で解決しようとしている政策が分かりやすかったので、今後も続けてほしい」という意見が多数あった。きんき環境館の今後の必要性を伝える場でもあったため、認知度も上がったと感じることができた。

- 【プログラム】
- 1, 開会、趣旨説明
 - 2, 講演①Local Coop 大和高原プロジェクト 一住民自治と住民共助による持続可能な地域づくりー 奈良市 平山裕也氏
 - 3, 講演②関係性を基盤とする“心地良い”協働のカタチ～ Re: ぶぜんプロジェクト ～サーキュラーシステムが紡ぐ小さな拠点2.0～ 豊前市 郡司掛ひろみ氏
 - 4, 講演③循環・共生の「まるごと」の社会づくり ～ボトムアップの公民連携の実装～ 一般社団法人エコシステム社会機構 野崎伸一氏
 - 5, 省庁ピッチ(7省庁)
 - 6, ネットワーキング
 - 7, 閉会

【開催状況】



1/29	<p><主催開催> 参加者数:8名</p> <p>【名称】 公益財団法人淡海環境保全財団インタビュー</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 淡海環境プラザ</p> <p>【内容】 一つの間接支援主体の形として地域で活動する他の団体の参考にってもらうため、地域で活躍する中間支援機能を有する団体の活動内容を発信する。 滋賀県地球温暖化防止活動推進センターの活動内容について、地球温暖化防止活動推進員との取組をメインにインタビューを行った。 滋賀県地球温暖化防止活動推進センターの活動内容と、地球温暖化防止活動推進員の活動が伝わる動画を作成し、一般公開することで、多くの人に中間支援主体の取組と、そこに携わる人たちのやりがいを知ってもらう機会となった。</p> <p>【主催】 きんき環境館</p> <p>【開催状況】</p>
	

④ 全国事業に関わる業務

日程	内容	
6/12	<会議参加>	参加者数:50名
6/13	<p>【名称】 令和6年度第1回全国EPO連絡会</p> <p>【参加者】 地方EPO、いであ(株)、GEOC、ERCA、環境省、地方事務所</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 GEOC</p> <p>【内容】 各地方EPO・GEOCの年間計画共有/SH連携促進事業の今年度の方向性/身近な自然資本活用に関する意見交換会の今年度の方向性/共生圏づくり支援事業について/地球環境基金との連携に関する今年度の見通し/EPO受託者会議</p>	
9/20	<p><会議参加> 参加者数:29名</p> <p>【名称】 令和6年度協働取組の効果最大化に関する検討会議</p> <p>【参加者】 GEOC、地方EPO</p> <p>【形態】 オンライン</p> <p>【内容】 伴走支援業務の観点から見た協働のプロセスについての対談/地方ブロック内ネットワークの観点から見た協働のプロセスについての対談/グループディスカッション</p>	
10/1	<会議参加>	参加者数:43名
10/2	<p>【名称】 令和6年度第2回全国EPO連絡会</p> <p>【参加者】 地方EPO、GEOC、ERCA、環境省、地方事務所、(株)JR東日本企画</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 富山県民会館(富山市)</p> <p>【内容】 地域における活動主体とEPOの協働について/地方における地方事務所とEPO受託団体の協働について/地球環境基金との連携におけるEPOの活用について/共生圏事業等の今後のスケジュール確認/EPO受託者会議</p>	
1/16	<会議参加>	参加者数:43名
1/17	<p>【名称】 令和6年度第3回全国EPO連絡会</p> <p>【参加者】 地方EPO、いであ(株)、GEOC、ERCA、環境省、地方事務所</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p>	

【場 所】	GEOC
【内 容】	今年度の議論まとめと事務所内での協働取組事例の共有／令和7年度に向けた各事業の確認／令和7年度に向けた基金連携の確認／EPO受託者会議

⑤ EPOネットワークとの情報交換会

日 程	内 容
12/20	<p><会議参加> 参加者数:51名</p> <p>【名 称】 EPOネットワークとの情報交換会(持続可能な地域づくりのための勉強会)</p> <p>【参加者】 GEOC、地方EPO、環境省、地方事務所、いであ、株式会社Ridilover、NPO法人ETIC.</p> <p>【形 態】 ハイブリッド</p> <p>【場 所】 GEOC</p> <p>【内 容】 持続可能な地域づくりを進める上で多様な視点を持っていることが重要であることから、「静動脈連携」や「生物多様性保全地域」といった内容の講義を受講し、参加者同士・講師との意見交換を通じて、地域づくりに関する知見を深めた。</p>

⑥ 施設の維持・管理

日 程	内 容
随時	外部団体からのチラシ、リーフレット、報告書、ポスター等の受け取り、配架
随時	期限切れのチラシの処分
随時	10年以上前の団体等の活動報告書や冊子を処分
随時	きんき環境館と近畿ESDセンターに関する冊子を複数種類用意したパンフレットセットを作り、来館者には説明と共に配布した。
	<p>●きんき環境館の開館状況</p> <p>年間開館日数：239日</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間延べ来場者数：81人

(4) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

① 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

ア 中間支援機能の担い手育成業務

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏づくりの中間支援主体が中間支援機能を獲得し、地域循環共生圏づくりの中間支援を実施できるようになるための支援を行う 中間支援機能を持つ主体を発掘し、地域循環共生圏づくりの中間支援機能の担い手となるよう後押しする 				
事業総括	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="368 421 523 1825">成果</td> <td data-bbox="523 421 1468 1825"> <ul style="list-style-type: none"> プラットフォームの構築に苦戦している際に、中間支援主体と対話を重ね、イメージの整理を行ったところ、共生圏事業への関係人口が増加し、プラットフォーム関係者と対話する機会の計画および実施につながった。 参加団体の活動や交流会等に積極的に出席し、信頼関係の構築を行い、相談や活動についても詳細に報告がある。共生圏事業だけでなく、きんき環境館の別イベントへも参加があるなど、きんき環境館の活動に対する信頼も一定成果としてあがっており、関係構築ができていと認識している。 行政と参加団体をつなぎ、参加団体の今後の活動にいい影響を与える連携を促すことができた。各自治体や省庁などと、イベント後もミーティングなどを行い、事例共有などを行っている様子が確認できた。 キックオフミーティングや中間共有会において、各参加団体の活動フィールドを紹介し合うことで、互いの活動への理解を促進した。参加団体同士の情報交換の場を設けることにより、地域を横断した連携の火種を生み出した。 月次報告書において、見立てと打ち手が的確に記入されるような助言や、どういった意図が必要としているのか、どれだけの重要性があるのかなどを伝え続けた結果、記載もれなどが減少した。 ＜エネシフ湖北・ともすラボ＞ 「ゼロカーボンビレッジ事業(脱炭素×祭り)」地域住民、学校、企業等を巻き込み、地域で作った再生エネルギーを使って提灯を灯すちょうちん祭を開催。中間支援主体は多方面の関係者の間に入り、調整やコーディネートを担当した。 「脱炭素×断熱」地域の学校主催で教室の窓の断熱ワークショップを実施。中間支援主体は、学校や断熱改修事業者、行政等の連携調整や対話の場づくりを行った。地域内の他の学校での実施に向けた動きもみられ、取組の横展開も期待できる。 「脱炭素×交通」中間支援主体コーディネートのもと、地域の交通会社やEV関連の事業者等とともに、地域交通の担い手となる事業者を中心に据えた地域交通システム構築に向けた検討会議が行われている。 ＜梅小路クリエイティブプラットフォーム(U-PLAT)・Design Week Kyoto実行委員会＞ 「土中改善ワークショップ」定期開催にあたって、地域住民や企業、公園の管理組合等とコミュニケーションを取れている。 「サステナブルツアー」現地関係者やツアー会社、自治体などとの話し合いを重ね次年度中には収益化を見据えた実現に向けて検討中。 「プロダクト開発」丹後ちりめん等、京都らしいものを使用した商品を企業や自治体等を交えて検討している。京都府内全域の産業から協働していくものを模索中。 ＜TOMOSU・奈良コクリ！実行委員会＞ 「コミュニティコンポストプロジェクト」イベントを4回実施した。プロジェクトチームの体制が整い、プロジェクト起案者が自信を持って進められている。 「コミュニティファンドプロジェクト」イベントを1回実施した。イベント実施を経て、方向性が見えてきており、今後の展開について検討している。 「春日山原始林プロジェクト」チーム体制を整え、プロジェクトに関わる多様な方々とのつながりを作ることができている。具体的な動きにつなげていくため、スケジュールを含め検討している。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="368 1825 523 2101">課題</td> <td data-bbox="523 1825 1468 2101"> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの参加団体への支援の状況について、支援事務局内の各担当間で共有、確認することでより丁寧な支援をめざした。しかし、担当間での各参加団体に関する情報共有や3地域の取組を俯瞰的にみた上での参加団体への助言等は十分とは言えない。支援事務局としての支援内容をより充実したものにするために、支援事務局内での情報共有を徹底し、支援事務局全体で各参加団体の状況や課題等の理解を深める。 共生圏事業としての地域での活動など、各団体や地域ごとの課題などをより理解し、対話を行っていく必要がある。 提出資料などの記載漏れについては、今後も声掛けをしていく必要がある。 </td> </tr> </table>	成果	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォームの構築に苦戦している際に、中間支援主体と対話を重ね、イメージの整理を行ったところ、共生圏事業への関係人口が増加し、プラットフォーム関係者と対話する機会の計画および実施につながった。 参加団体の活動や交流会等に積極的に出席し、信頼関係の構築を行い、相談や活動についても詳細に報告がある。共生圏事業だけでなく、きんき環境館の別イベントへも参加があるなど、きんき環境館の活動に対する信頼も一定成果としてあがっており、関係構築ができていと認識している。 行政と参加団体をつなぎ、参加団体の今後の活動にいい影響を与える連携を促すことができた。各自治体や省庁などと、イベント後もミーティングなどを行い、事例共有などを行っている様子が確認できた。 キックオフミーティングや中間共有会において、各参加団体の活動フィールドを紹介し合うことで、互いの活動への理解を促進した。参加団体同士の情報交換の場を設けることにより、地域を横断した連携の火種を生み出した。 月次報告書において、見立てと打ち手が的確に記入されるような助言や、どういった意図が必要としているのか、どれだけの重要性があるのかなどを伝え続けた結果、記載もれなどが減少した。 ＜エネシフ湖北・ともすラボ＞ 「ゼロカーボンビレッジ事業(脱炭素×祭り)」地域住民、学校、企業等を巻き込み、地域で作った再生エネルギーを使って提灯を灯すちょうちん祭を開催。中間支援主体は多方面の関係者の間に入り、調整やコーディネートを担当した。 「脱炭素×断熱」地域の学校主催で教室の窓の断熱ワークショップを実施。中間支援主体は、学校や断熱改修事業者、行政等の連携調整や対話の場づくりを行った。地域内の他の学校での実施に向けた動きもみられ、取組の横展開も期待できる。 「脱炭素×交通」中間支援主体コーディネートのもと、地域の交通会社やEV関連の事業者等とともに、地域交通の担い手となる事業者を中心に据えた地域交通システム構築に向けた検討会議が行われている。 ＜梅小路クリエイティブプラットフォーム(U-PLAT)・Design Week Kyoto実行委員会＞ 「土中改善ワークショップ」定期開催にあたって、地域住民や企業、公園の管理組合等とコミュニケーションを取れている。 「サステナブルツアー」現地関係者やツアー会社、自治体などとの話し合いを重ね次年度中には収益化を見据えた実現に向けて検討中。 「プロダクト開発」丹後ちりめん等、京都らしいものを使用した商品を企業や自治体等を交えて検討している。京都府内全域の産業から協働していくものを模索中。 ＜TOMOSU・奈良コクリ！実行委員会＞ 「コミュニティコンポストプロジェクト」イベントを4回実施した。プロジェクトチームの体制が整い、プロジェクト起案者が自信を持って進められている。 「コミュニティファンドプロジェクト」イベントを1回実施した。イベント実施を経て、方向性が見えてきており、今後の展開について検討している。 「春日山原始林プロジェクト」チーム体制を整え、プロジェクトに関わる多様な方々とのつながりを作ることができている。具体的な動きにつなげていくため、スケジュールを含め検討している。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの参加団体への支援の状況について、支援事務局内の各担当間で共有、確認することでより丁寧な支援をめざした。しかし、担当間での各参加団体に関する情報共有や3地域の取組を俯瞰的にみた上での参加団体への助言等は十分とは言えない。支援事務局としての支援内容をより充実したものにするために、支援事務局内での情報共有を徹底し、支援事務局全体で各参加団体の状況や課題等の理解を深める。 共生圏事業としての地域での活動など、各団体や地域ごとの課題などをより理解し、対話を行っていく必要がある。 提出資料などの記載漏れについては、今後も声掛けをしていく必要がある。
成果	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォームの構築に苦戦している際に、中間支援主体と対話を重ね、イメージの整理を行ったところ、共生圏事業への関係人口が増加し、プラットフォーム関係者と対話する機会の計画および実施につながった。 参加団体の活動や交流会等に積極的に出席し、信頼関係の構築を行い、相談や活動についても詳細に報告がある。共生圏事業だけでなく、きんき環境館の別イベントへも参加があるなど、きんき環境館の活動に対する信頼も一定成果としてあがっており、関係構築ができていと認識している。 行政と参加団体をつなぎ、参加団体の今後の活動にいい影響を与える連携を促すことができた。各自治体や省庁などと、イベント後もミーティングなどを行い、事例共有などを行っている様子が確認できた。 キックオフミーティングや中間共有会において、各参加団体の活動フィールドを紹介し合うことで、互いの活動への理解を促進した。参加団体同士の情報交換の場を設けることにより、地域を横断した連携の火種を生み出した。 月次報告書において、見立てと打ち手が的確に記入されるような助言や、どういった意図が必要としているのか、どれだけの重要性があるのかなどを伝え続けた結果、記載もれなどが減少した。 ＜エネシフ湖北・ともすラボ＞ 「ゼロカーボンビレッジ事業(脱炭素×祭り)」地域住民、学校、企業等を巻き込み、地域で作った再生エネルギーを使って提灯を灯すちょうちん祭を開催。中間支援主体は多方面の関係者の間に入り、調整やコーディネートを担当した。 「脱炭素×断熱」地域の学校主催で教室の窓の断熱ワークショップを実施。中間支援主体は、学校や断熱改修事業者、行政等の連携調整や対話の場づくりを行った。地域内の他の学校での実施に向けた動きもみられ、取組の横展開も期待できる。 「脱炭素×交通」中間支援主体コーディネートのもと、地域の交通会社やEV関連の事業者等とともに、地域交通の担い手となる事業者を中心に据えた地域交通システム構築に向けた検討会議が行われている。 ＜梅小路クリエイティブプラットフォーム(U-PLAT)・Design Week Kyoto実行委員会＞ 「土中改善ワークショップ」定期開催にあたって、地域住民や企業、公園の管理組合等とコミュニケーションを取れている。 「サステナブルツアー」現地関係者やツアー会社、自治体などとの話し合いを重ね次年度中には収益化を見据えた実現に向けて検討中。 「プロダクト開発」丹後ちりめん等、京都らしいものを使用した商品を企業や自治体等を交えて検討している。京都府内全域の産業から協働していくものを模索中。 ＜TOMOSU・奈良コクリ！実行委員会＞ 「コミュニティコンポストプロジェクト」イベントを4回実施した。プロジェクトチームの体制が整い、プロジェクト起案者が自信を持って進められている。 「コミュニティファンドプロジェクト」イベントを1回実施した。イベント実施を経て、方向性が見えてきており、今後の展開について検討している。 「春日山原始林プロジェクト」チーム体制を整え、プロジェクトに関わる多様な方々とのつながりを作ることができている。具体的な動きにつなげていくため、スケジュールを含め検討している。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの参加団体への支援の状況について、支援事務局内の各担当間で共有、確認することでより丁寧な支援をめざした。しかし、担当間での各参加団体に関する情報共有や3地域の取組を俯瞰的にみた上での参加団体への助言等は十分とは言えない。支援事務局としての支援内容をより充実したものにするために、支援事務局内での情報共有を徹底し、支援事務局全体で各参加団体の状況や課題等の理解を深める。 共生圏事業としての地域での活動など、各団体や地域ごとの課題などをより理解し、対話を行っていく必要がある。 提出資料などの記載漏れについては、今後も声掛けをしていく必要がある。 				

日程	内容				
4/25	<中間支援会議> 【内容】ヒアリング及び視察	TOMOSU	【形態】	対面	【場所】BONCHI
4/26	<中間支援会議> 【内容】ヒアリング	エネシフ湖北	【形態】	オンライン	
5/1	<中間支援会議> 【内容】ヒアリング及び視察	U-PLAT	【形態】	対面	【場所】京都リサーチパーク
6/10	<中間支援会議> 【内容】月次報告確認、6/14キックオフについて、今後の活動予定について	U-PLAT	【形態】	オンライン	
6/10	<中間支援会議> 【内容】月次報告確認、6/14キックオフについて、今後の活動予定について	TOMOSU	【形態】	オンライン	
6/13	<中間支援会議> 【内容】月次報告確認、6/14キックオフについて、今後の活動予定について	エネシフ湖北	【形態】	オンライン	
6/21-22	<中間支援会議> 【内容】現地視察(山門水源の森、西浅井地域)	エネシフ湖北	【形態】	対面	【場所】長浜市西浅井
7/5	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業のゴールとステップ・支援内容の確認、今後の活動予定	エネシフ湖北	【形態】	オンライン	
7/8	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業のゴールとステップ・支援内容の確認、今後の活動予定	U-PLAT	【形態】	オンライン	
7/11	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業のゴールとステップ・支援内容の確認、今後の活動予定	TOMOSU	【形態】	オンライン	
8/9	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	U-PLAT	【形態】	オンライン	
8/13	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	TOMOSU	【形態】	オンライン	
8/21	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	エネシフ湖北	【形態】	オンライン	
9/12	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	TOMOSU	【形態】	オンライン	
9/18	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	U-PLAT	【形態】	オンライン	
9/19	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	エネシフ湖北	【形態】	オンライン	
10/8	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	U-PLAT	【形態】	オンライン	
10/10	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	TOMOSU	【形態】	オンライン	
10/17	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	エネシフ湖北	【形態】	オンライン	
11/8	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定、マンドラ・ステークホルダーマップの作成についての相談	U-PLAT	【形態】	オンライン	
11/8	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	エネシフ湖北	【形態】	オンライン	
11/11	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	TOMOSU	【形態】	オンライン	
12/6	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	U-PLAT	【形態】	オンライン	
12/12	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	TOMOSU	【形態】	オンライン	
12/12	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	エネシフ湖北	【形態】	オンライン	
1/10	<中間支援会議> 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定	U-PLAT	【形態】	オンライン	

1/15	<中間支援会議> TOMOSU 【形態】 オンライン 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定
1/14	<中間支援会議> エネシフ湖北 【形態】 オンライン 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定
2/5	<ステークホルダーミーティング> TOMOSU 【形態】 対面 【場所】BONCHI 【内容】これまでの事業や活動の報告・共有、地域を言語化するワークショップが行われた
2/6	<中間支援会議> U-PLAT 【形態】 オンライン 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定
2/12	<中間支援会議> エネシフ湖北 【形態】 オンライン 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定
2/12	<ステークホルダーミーティング>U-PLAT 【形態】 対面 【場所】Umekoji MARKEt 【内容】団体のビジョンの確認、これまでの事業や活動の報告・共有、今後の事業展開に関するディスカッションを行った
2/13	<中間支援会議> TOMOSU 【形態】 オンライン 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定
2/15	<ステークホルダーミーティング>エネシフ湖北 【形態】 対面 【場所】えきまちテラス長浜 【内容】これまでの活動報告と成果の共有、地域資源の掘り起こしや森林に関連するテーマについて話し合うワークショップ、今後の活動の方向性と参加者との連携についての共有
3/12	<中間支援会議> U-PLAT 【形態】 オンライン 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定
3/13	<中間支援会議> TOMOSU 【形態】 オンライン 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定
3/13	<中間支援会議> エネシフ湖北 【形態】 オンライン 【内容】月次報告、各事業の進捗と支援内容の確認、成果品について、今後の活動予定

イ キックオフミーティング及び中間共有会の開催

日程	内容
6/14	<p><主催開催> 参加者数:29名</p> <p>【名称】 近畿ブロックキックオフミーティング</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 京都リサーチパーク</p> <p>【内容】 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の説明／参加団体活動計画発表／ワークショップ「地域で活動を進めるワザ」</p> <p>【主催】 きんき環境館</p> <p>【プログラム】 1, 開会、趣旨説明 2, 活動団体の発表(参加団体) 3, ワークショップ「地域で活動を進めるワザ」</p> <p>【開催状況】</p> 

11/25

<主催開催>

参加者数:15名

【名称】 近畿ブロック中間共有会

【形態】 対面

【場所】 さざなみタウン(長浜市)

【内容】 参加団体活動報告/参加団体交流のためのワークショップ/今後の予定確認

【主催】 さんさ環境館

【プログラム】
1, 開会、趣旨説明
2, 活動団体からの支援手法等活動紹介
3, ワークショップ(2回)

【開催状況】



ウ GEOCが主催する会議等への参加

日程	内容	
5/15	<p><会議参加></p> <p>【名称】 地方EPO等共有会</p> <p>【参加者】 地方EPO、いであ株式会社、GEOC、ERCA、環境省、地方事務所</p> <p>【形態】 オンライン</p> <p>【内容】 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の事務方キックオフとして、目的とスケジュール、採択団体の見立てを共有した。</p>	参加者数:72名
5/30 5/31	<p><会議参加></p> <p>【名称】 第1回中間支援ギャザリング</p> <p>【参加者】 共生圏参加中間支援主体26団体、地方EPO、いであ株式会社、GEOC、ERCA、環境省、地方事務所</p> <p>【形態】 オンライン</p> <p>【内容】 共生圏事業の目的や目指すべき中間支援機能についてのインプット、中間支援主体の活動紹介。</p>	参加者数:90名
9/4	<p><会議参加></p> <p>【名称】 令和6年度地域循環共生圏づくり支援体制構築事業作業部会①</p> <p>【参加者】 GEOC、地方EPO、環境省、地方事務所、いであ沖縄支社、ERCA</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 GEOC</p> <p>【内容】 全国支援事務局視点の課題感の共有のほか、各地方の案件の概要を共有するグループワークを行い、継続の可否を判断するための視点について説明を受けた</p>	参加者数:20名
12/18	<p><会議参加></p> <p>【名称】 令和6年度地域循環共生圏づくり支援体制構築事業事業検討会議</p> <p>【参加者】 地方EPO、いであ株式会社、GEOC、ERCA、環境省、地方事務所</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 GEOC</p> <p>【内容】 本事業として目指す姿の確認、次年度の実施内容の共有及び議論、今年度中の予定の共有を行った。</p>	参加者数:63名
1/30	<p><会議参加></p> <p>【名称】 令和6年度地域循環共生圏づくり支援体制構築事業作業部会②</p> <p>【参加者】 GEOC、地方EPO、環境省、地方事務所、いであ沖縄支社、ERCA</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 GEOC</p> <p>【内容】 全国の採択団体に関する中間支援機能の向上・発揮状況や中間支援ギャザリング②のプログラム、次年度の報告書類のフォーマット案についてグループワークを行った。各地方の状況やニーズの整理・共有を行った。</p>	参加者数:54名
2/27 2/28	<p><会議参加></p> <p>【名称】 令和6年度地域循環共生圏づくり支援体制構築事業中間支援ギャザリング②</p> <p>【参加者】 事業参加中間支援主体26団体、事業参加活動団体4団体、地方EPO、いであ株式会社、GEOC、ERCA、環境省、地方事務所、農林水産省農林水産政策研究所、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット、早稲田大学研究戦略センター、滋賀県立大学、株式会社Ridilover</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 TKP新橋カンファレンスセンター</p> <p>【内容】 中間支援主体としての地域循環共生圏づくりの支援を振り返り、各地域の団体と交流を深め、取組の今後のさらなる発展を目指すネットワーキングを行った。</p>	参加者数:71名

エ 次年度事業の参加団体の審査委員会運営業務

日程	内容
12/17	<p><主催開催></p> <p>【名称】 令和6年度地域循環共生圏づくり支援体制構築事業継続審査委員会</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 近畿事務所</p>

<p>【内 容】 環境省の地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に参加している近畿地方の中間支援主体3団体、活動団体3団体への支援を次年度も継続するか否かを判断する審査委員会</p> <p>【プログラム】 1, 開会、趣旨説明 2, 事務局より団体概要説明、質疑応答 3, 採点、集計 4, 結果確定 5, 閉会</p>

<p><継続審査委員会 名簿> 敬称略・五十音順</p>		
所属等	役職	氏名
京都大学フィールド科学教育研究センター	特定研究員	田中 拓弥
社会福祉法人大阪ボランティア協会	事務局長	永井 美佳
同志社大学	名誉教授	新川 達郎
滋賀県立大学	准教授	平岡 俊一

オ 卒業団体のフォローアップ調査

日 程	内 容
<p>11/14</p>	<p><ヒアリング></p> <p>【名 称】 卒業団体フォローアップ調査 個別ヒアリング</p> <p>【目 的】 共生圏PF事業で環境整備又は事業化支援を終了した活動団体のその後の取組の進捗についてフォローアップを行う。また、事業のアウトカムや波及効果を収集するとともに地域内での情報交換も行う。</p> <p>【参加者】 公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)フェロー、一般社団法人徳島地域エネルギー</p> <p>【形 態】 対面</p> <p>【場 所】 神戸バイオマスラボ(神戸市)</p> <p>【内 容】 ヒアリングを行った(共生圏PF事業を振り返って・現在の状況について・今後の展開について)</p> <p>地域循環共生圏プラットフォーム構築事業の3年間を経た後にNEDO事業に採択された。マンガラで描いた事業を実際に推進するための準備を進めてきた。現在は、北摂地域におけるバイオマス活用モデルを県全体に展開すべく、兵庫県と協力している。兵庫県が環境省事業(地域脱炭素ステップアップ講座)の一環において、バイオマス部会を立ち上げ、前田氏が講師を務めた。結果、7市町村程度が森林活用のためのボイラー導入検討を始めている。</p> <p>【参考】</p>
	

② 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> 自然資本の活用に関する先進的な取組や仕組み・システムを伝え、共感する中間支援主体、活動団体を掘り起こす 	
事業総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> 第1回では、自然共生サイト担当者や自然共生サイト登録に関心のある企業、支援のあり方を検討している企業の参加により、参加者間のネットワーク構築のきっかけとなる意見交換会になった。 第2回では、自然共生サイトでの取組を現地で学習することで、実際の取組と課題を参加者間で共有することができた。さらに、自然栽培や教育連携の観点で自然共生サイト登録を検討している奈良県のコーディネーターと学校教員が意見交換会に参加しており、地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に興味を持つ自然資本の活用に関する活動を行う団体1件と新しい繋がりができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 自然共生サイトの登録後の取り組み方や相談先に困る声があり、担当者だけでは活動の継続や持続可能な自然共生サイトの運営が困難と考えられる。地域での実践を軸とした自然共生サイト等の制度の活用方法やネイチャーポジティブに向けた取り組み方に関して、多様な主体が情報交換や交流を行うことのできる場の提供が必要となる。 意見交換会では、社内外での自然共生サイトの認知度向上が課題との声が複数あがった。特に、無関心層へのアプローチに関する課題感の声が多く寄せられ、社内の主担当者レベルにしか自然共生サイトの認知が広がっていないと考えられる。

日程	内容	
10/2	<p><共催開催></p> <p>【名称】 第1回「自然共生サイトを活用したネイチャーポジティブの取組」</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 いであ(株)大阪支社</p> <p>【内容】 ネイチャーポジティブに関する最新情報や自然共生サイトの地域における企業や団体との連携事例の共有や、自然共生サイト担当者及び申請を検討している企業や団体同士の交流を促したり、自然共生サイトでの活動や地域連携における課題を出し合いネイチャーポジティブに向けた取組を考える</p> <p>【共催】 近畿事務所、日本環境アセスメント協会 協働運営:きんき環境館</p>	参加者数:79名
11/20	<p><主催開催></p> <p>【名称】 第2回「自然共生サイトを活用したネイチャーポジティブの取組」</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 みなくち子どもの森(甲賀市)</p> <p>【内容】 ・現地見学(ササユリ保全活動の現場等) 案内人:学芸員 小西 省吾 氏、自然観察指導員 橋詰 純子 氏 ・グループディスカッション テーマ:多様な団体との連携を進めるための工夫</p> <p>【主催】 近畿事務所</p> <p>【プログラム】 1, 開会、趣旨説明 2, 現地見学(ササユリ保全活動の現場等) 3, グループディスカッション</p>	参加者数:14名

【開催状況】



③ 地域循環共生圏の創造に係る情報の収集及び提供ならびに関係性構築

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリング等を通して、各地域コーディネーターとの更なる関係構築を目指す 												
事業総括	<p>関係団体のネットワークを量的な「広がり」と質的な「深まり」に集約しスタッフ間で情報を共有化することで現場とコーディネーターに関する情報を一元管理し、有効に活用する。集約する際の分類として、ネットワークレベル(Lv)を以下のように定義した。</p> <p>ネットワークレベル(Lv)</p> <p>Lv1 イベントなどを通じて開拓、交流した関係者</p> <p>Lv2 メールマガジンなどを通じて定期的な情報交換を行っている関係者</p> <p>Lv3 定期的なコミュニケーションなどを通じて担当者間の人間関係が形成されている</p> <p>Lv4 イベント登壇、伴走支援、取材などを通じて組織の内容、得意分野などについて共有している</p> <p>Lv5 事業等の協働開催を通じて密な関係性が出来ている</p> <p>結果、以下の通り集約することができた。</p> <table border="1" data-bbox="576 1464 1414 1608"> <thead> <tr> <th>ネットワークレベル(Lv)</th> <th>Lv1</th> <th>Lv2</th> <th>Lv3</th> <th>Lv4</th> <th>Lv5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>2,466</td> <td>3,637</td> <td>462</td> <td>131</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ネットワークレベルのLv3及びLv4がそれぞれ、232人、51人増加した。 年間を通して1,119人(Lv1の増加数)の方と関係性を構築することができた。 年間の業務、地域循環共生圏事業や近畿ESDセンター業務を通して、複数の地域におけるニーズや課題、その地域で活動するコーディネート機能を有する人や組織を把握することができた。また、昨年の課題であったきんき環境館の所在地から遠方の地域で活動する人や組織との関係構築を進めることができた。 複数の中間支援団体や活動団体にヒアリング等を行い、地域循環共生圏事業に当てはまる団体の発掘につながった。 関係者同士が、イベント終了後も連絡を取り合い、連携に向けたオンラインミーティングなどを実施していることをヒアリングするなど、前年度より具体的な変容を意識したフォローができた。 	ネットワークレベル(Lv)	Lv1	Lv2	Lv3	Lv4	Lv5	人数	2,466	3,637	462	131	—
ネットワークレベル(Lv)	Lv1	Lv2	Lv3	Lv4	Lv5								
人数	2,466	3,637	462	131	—								

課題	<ul style="list-style-type: none"> • 現地に赴いて得た情報を整理し、今後のきんき環境館業務において活用を進める。 • 多くのイベントを通じて、多様な主体との関係構築をはかれたが、新た取組の創出や協働取組への発展などまでは至っていない。コミュニケーションを密接に取り、有益な情報交換や集客などにつながる関係構築を目指す必要がある。 • 事例の共有を促しながら、きんき環境館として関わっていけるところはないかどうか、アンテナを立てて情報を収集していく必要がある。
----	--

日程	内容
8/1	<p><現地見学></p> <p>【目的】 地域のニーズやコーディネート機能を有する人・組織を把握する。</p> <p>【参加者】 NPO法人夢ノ森伴走者CUE代表、森林所有者</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 NPO法人夢ノ森伴走者CUE(姫路市)</p> <p>【内容】 地域の拠点として運営するつながりカフェと、若者育成の拠点としてキャンプ場整備をしようとしている森林を案内いただき、団体のビジョン等をお聞きした。過疎地域のあらゆる課題と向き合い、多様・多世代の住民が自分達で課題解決していけるよう対話の場を作る工夫をされており、20代前半の代表だが地域の企業なども巻き込みながら進めることができる実力が認められた。</p> <p>若者がやりたいことにトライして実践を積み、他の地域で活躍できるように山林を開放して伴走支援をすること。新しい発想で荒廃林の解決と人材育成の両立を目指している。</p>
8/26	<p><現地見学></p> <p>【目的】 地域のニーズやコーディネート機能を有する人・組織を把握する。</p> <p>【参加者】 NPO法人京都丹波・丹後ネットワーク理事、副理事長</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 NPO法人京都丹波・丹後ネットワーク(福知山市)</p> <p>【内容】 団体立ち上げの経緯やビジョン、現在の取組や資金源確保の手法について話を伺った。企業や福知山市、様々な施設と連携し、地域の課題解決に奔走している。特に弱者の救済を進めながら、あらゆるセクターがフラットな関係を築くことに注力しており、市民社会の意識醸成を進めている好事例である。</p>
8/28	<p><現地見学></p> <p>【目的】 地域のニーズやコーディネート機能を有する人・組織を把握する。</p> <p>【参加者】 京都市市民活動総合センター長、副センター長</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 京都市市民活動総合センター</p> <p>【内容】 センター立ち上げ時から現在までのセンターに来る相談内容が、NPO法人設立の相談から、NPO法人解散相談や、どの法人格(一社、NPO、任意団体等)で設立を行うかからの相談に変化してきているとのことだった。また、近年ではWebサイトを活用し、NPOを理解し支援者・協力者になってもらうよう市民に対しての呼びかけにも力を入れている。</p>
8/29	<p><現地見学></p> <p>【目的】 地域のニーズやコーディネート機能を有する人・組織を把握する。</p> <p>【参加者】 一般社団法人みんなとふるさと代表理事、事務局、天理市(環境経済部農林課、市長公室総合政策課)、福住小中学校ESD教育担当教員</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 一般社団法人みんなとふるさと(奈良県福住村等)</p> <p>【内容】 天理市のオーガニックビレッジ構想を軸に天理市周辺での持続可能な地域づくりの取組について話を伺った。大和高原「福住村」プロジェクトは、旧福住中学校を拠点として利活用し、オーガニック茶園の再生プロジェクトや福住小中学校と連携した教育プロジェクト、地域交流イベント(マルシェ等)を地域住民の声を拾い、主体性を育みながら活動されている。山添村で実施する「YAMAZOEオーガニックスクール」では、山添村立奈良県立山辺高校山添分校の高校生と大人がオーガニックの基本を学ぶ農業体験塾を村の教育委員会とともに開催している。</p>

9/5	<p><現地見学></p> <p>【目的】 地域のニーズやコーディネート機能を有する人・組織を把握する。</p> <p>【参加者】 NPO法人わかやまNPOセンター理事長、同事務局長、中田の棚田再生プロジェクト代表、同コアメンバー</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 NPO法人わかやまNPOセンター</p> <p>【内容】 中田の棚田再生プロジェクトの現地を見学し、センターの支援が実質的、継続的であり、その結果として様々な人を巻き込み、自然再生が実現していることを確認した。支援に繋がったいくつかの経緯を聞いたところ、センター職員が積極的に地域に出ていって対話をし、住民自治に繋がるものであれば何回も足を運んでの伴走支援を行っていた。また行政情報を整理して地域の現状を分かりやすく伝えることを10年も続けており、発信した記事により、新たな人を巻き込んだり、共感した人が集まりプロジェクト化したりなど、次のステップへと発展していた。</p>
9/11	<p><現地見学></p> <p>【目的】 地域のニーズやコーディネート機能を有する人・組織を把握する。</p> <p>【参加者】 NPO法人シミズシーズ代表</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 NPO法人シミズシーズ(加古川市)</p> <p>【内容】 商店街を中心とした地域を園庭とする保育園「かわのまちほいくえん」とその2階にある「かわのまちリビング」(コワーキングスペース兼レンタルスペース)、兵庫県からの委託で運営している「かこむ」(東播磨生活創造センター)を見学し、様々なセクターや年代が生き活きと市民活動をする様子を見ることができた。地域住民のニーズを拾いあげ、自立した地域活動に発展させる見事な手腕をベースとし、市民活動センターには来ない子育て層に対し保育園をつくることでコンタクトし、商店街の人達と繋げてまちの活性化と自治意識の醸成に成果をあげていた。</p>
12/9	<p><現地見学></p> <p>【名称】 有限責任事業組合まちの人事企画室</p> <p>【目的】 地域のニーズやコーディネート機能を有する人・組織を把握する</p> <p>【参加者】 有限責任事業組合まちの人事企画室、ゆう薬局、株式会社FoundingBase、舞鶴市地域おこし協力隊、株式会社ローカルフラッグ、一般社団法人丹後暮らし探求舎</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 京丹後市未来チャレンジ交流センターほか</p> <p>【内容】 中高生が何かやりたい事があった時に地域のリソースと高校生をつなぐ開かれた場としての事例紹介や、京丹後市で働く若手社会人のつながりづくりを目的としたワークスペースの見学などを行った。人や組織との積極的な繋がりにより、それぞれの人、組織が取組を広げていた。</p>
1/28	<p><現地見学></p> <p>【名称】 NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路</p> <p>【目的】 地域のニーズやコーディネート機能を有する人・組織を把握する</p> <p>【参加者】 NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路(南あわじ市)</p> <p>【内容】 淡路島で地域のビジョンを地域で作る活動を行政や、大学関係者と協力しながら取り組んできた内容についてお話をうかがった。人に役割を与えることにより、引きこもり当事者や、デイサービスの利用者に対する支援を行っている。放置農園の清掃など、環境を絡めた取組による福祉支援の好事例となっている。</p>

4 実施業務（近畿ESDセンター運営業務）

(1) 業務実施計画（案）の作成

準備会により近畿 ESD センター企画運営委員の助言を受け、「6 令和6年度 きんき環境館・近畿地方ESD活動支援センター業務計画」の通り業務実施計画書を作成した。

日程	内容
4/17	<p><主催・共催打合せ></p> <p>【名称】 近畿 ESD センター企画運営委員会 準備会</p> <p>【参加者】 来田委員、上村委員、尾上委員、長友委員、近畿事務所、中澤委員、庄田委員、平井委員</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 エル・おおさか</p> <p>【内容】 近畿 ESD センター事業計画や企画に対する意見やアイデアをいただいた。</p>
5/10	<p><主催・共催打合せ></p> <p>【参加者】 中澤委員、長友委員</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 奈良教育大学</p> <p>【内容】 事業計画案の学びあいプロジェクトの内容についてご説明し、ご意見をいただいた。</p>

(2) 近畿ESDセンター企画運営委員会の設置・開催

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い関係者の参画を得て事業を推進する 事業実施計画(案)等について議論する
事業総括	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な主体に精通している委員から、たくさんのアドバイスや情報共有をいただくことができ、事業に生かすことができた。 年間を通して積極的にイベントに参加していただき、事業について適宜相談しながら進めることができた。
	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状、近畿ESDセンター企画運営委員会の有識者は、特定の大学に集中している。他の大学の有識者にも関わってもらえるよう検討する。 次年度が3ヶ年の最後となるので、近畿ESDセンターのあり方について議論していくことが求められる。

日程	内容
5/20	<p><主催開催> 参加者数:13名</p> <p>【名称】 令和6年度第1回近畿地方ESD活動支援センター企画運営委員会</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 エル・おおさか</p> <p>【内容】 近畿ESDセンターの事業計画や企画に対する意見やアイデアをいただいた。</p> <p>【開催状況】</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>【主催】 近畿ESDセンター</p>

2/3	<p><主催開催></p> <p>【名称】 令和6年度第2回近畿地方ESD活動支援センター企画運営委員会</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 大阪産業創造館</p> <p>【内容】 近畿ESDセンターの事業について報告を行い、ご意見をいただきました。</p> <p>【開催状況】</p>  <p>【主催】 近畿ESDセンター</p>	参加者数:9名
-----	---	---------

<企画運営委員会 名簿> 敬称略・五十音順		
所属等	役職	氏名
公益財団法人吉野川紀の川源流物語	事務局長	尾上 忠大
NPO法人とよなかESDネットワーク	事務局長	上村 有里
公益財団法人淡海環境保全財団	キャリアアドバイザー	来田 博美
特定非営利活動法人いけだエコスタッフ	理事長	庄田 佳保里
奈良教育大学/ ESD・SDGsセンター	センター長	中澤 静男
同志社大学	教授	中島 恵理
奈良教育大学/日本ESD学会	名誉教授/初代会長	長友 恒人
(株)総合水研究所		平井 研

(3) ESD活動に関する域内情報の収集・発信及びESD活動に関する域内外への情報提供等

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> 他団体が主催するイベント情報や教材の情報等のESD関連情報も随時掲載する 相談終了後の進捗確認について方策を検討し、試行する 	
事業総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> 近畿ESDセンターWebアクセス数:4,519 学校への訪問を通して、現場の課題を情報収集する事ができた。 相談対応を通して近畿ESDセンターの支援について理解した過去の相談者から、別の相談で再度コンタクトがあった。 これまでの相談対応でつながった方に対し、イベント参加への声掛け等、継続した繋がりを持つ中で、相談対応のフォローアップができています。 <p><K中学校> 森と水の源流館を紹介して以降、数名の生徒と森と水の源流館を訪れ、展示を通して水について学んだ。その後校内で発表する機会を持ち、他の生徒にも共有が行われたことが確認できた。</p> <p><S小学校> NPO法人とよなかESDネットワークをご紹介したところ、来年度の授業に向けた準備の一環としてまち歩きを行ったとのことであった。また、今後も打ち合わせを継続していくことが確認できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> マルチセクターボードユネスコスクール編では、高校と小学校とセクターを分けることにより、参加者がより具体的で身近な課題や事例の共有を行うことができた。参加者が事例を自分事として認識しやすく、建設的な意見交換が行える場となった。今までの一方的な講演でなく、質問しながら情報交換できる機会が非常に多かったとの声が多かった。今後は、近畿ESDセンターとして、学校などに研修してくれる方を派遣する仕組みづくりを検討していると伝えたとこ、非常に有用だとの声が多く、次年度の取組に生かせることが分かった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 近畿ESDセンターWebアクセス数目標前年比5%アップに対して、4,519(前年比-4%)近畿ESDセンターウェブサイトの更新は定期的に行われていたのにもかかわらず、ウェブサイトへのアクセス数は増加しなかった。ユーザーのニーズを把握し、ニーズに合った情報を収集する必要がある。 相談対応内容や実施した情報収集について、発信ができていない。近畿ESDセンターができる支援について認知度を高めるため、ウェブサイト等をさらに活用し情報発信することが必要である。 マルチセクターボードユネスコスクール編を年度末の3月に実施したことにより、参加率が悪かった。学校などは、3月は式典や異動などで非常に忙しいため、イベント開催時のタイミングは慎重に考える必要がある。

(4) ESD活動に関する相談・支援窓口

A 相談対応

属性	一般市民	NGO/NPO 市民団体	行政(官公 庁)	企業(事業 者)	学校/専門 家等	環境系施設 等	計
件数	1	9	4	7	8	0	29

(令和7年3月22日現在)

B 対話の場作り

日程	内容
3/5	<p><主催開催> 参加者数:7名</p> <p>【名称】 マルチセクターボードユネスコスクール編(高校)</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 きんき環境館</p> <p>【内容】 ユネスコスクールの高校教員に学校での取組を共有していただき、近畿ESDセンターに期待することについて意見交換を行った。</p> <p>【主催】 近畿ESDセンター</p> <p>【プログラム】 1, 趣旨説明、近畿ESDセンターについての説明 2, 参加者による取組紹介 3, 意見交換</p>

	【開催状況】	
3/11	<p><主催開催></p> <p>【名称】 マルチセクターボードユネスコスクール編（小学校）</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 きんき環境館</p> <p>【内容】 ユネスコスクール及びESDの先進的な実践を行っている小学校教員に、学校での取組を共有いただき、近畿ESDセンターに期待することについて意見交換を行った。</p> <p>【主催】 近畿ESDセンター</p> <p>【プログラム】 1, 趣旨説明、近畿ESDセンターについての説明 2, 参加者による取組紹介 3, 意見交換</p> <p>【開催状況】</p>	<p>参加者数：6名</p> 
3/12	<p><主催開催></p> <p>【名称】 マルチセクターボード企業編</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 エル・おおさか</p> <p>【内容】 企業が行っているESD取組を共有いただき、交流の場としてのネットワーク構築や意見交換を行った。</p> <p>色々な業種の方々にご参加いただいたことにより、色々な視点からのアドバイスが得られた。また、企業特有の協働を意識した意見が多く、今後のつながりに期待がもてる結果であった。一方で、近畿ESDセンターが企業に対してできることなどがあまりまとまっておらず、事例などの収集はできたが、ニーズ把握までには至らなかった。</p> <p>各企業が自社が行っていることがESDだと認識していないことが多いことが分かった。企業毎に行っていることをリサーチして、イベント等の企業参加を増やしたり、促す必要がある。</p>	<p>参加者数:9名</p>

<p>【主催】 近畿ESDセンター</p> <p>【プログラム】 1, 趣旨説明、近畿ESDセンターについての説明 2, 参加者による取組紹介 3, 意見交換</p> <p>【開催状況】</p>	
---	--

(5) 近畿ESDセンターに係るパンフレット等発信情報の作成・配布

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> ESD活動に関する域内情報の収集・発信及びESD活動に関する域内外への情報提供等 近畿ESDセンターに係るパンフレット等発信情報の作成・配布 	
事業総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> 事業概要が伝わりやすいようなデザインのパンフレットを作成した。 きんき環境館のパンフレットと合わせて作成することにより、2つの事業の関係性を認識しやすくさせることができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> パンフレット制作が遅く、配布まで行えていないため、送付先・配架依頼先を丁寧に検討する必要がある。

(6) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供

① 「2030学びあいプロジェクト」の企画等

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> セクターごとの学びあい、セクター間の学び合いを踏まえて参加者が令和7年度の活動計画を作成することで、実践が生まれる機運が醸成される 教育委員会と自治体環境部局の連携事例を共有することで連携する仕組みづくりの支援と教育現場におけるプロジェクト試行の支援につなげる 	
事業総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> 参加対象者を絞ったことで、参加者間でアクションにつなげられる具体的な議論ができた。実践が生まれる機運が醸成された。 特に第4回でこれまでのポイントを振り返ったことで、学校と地域の連携に必要なことが明らかになった。また、近畿ESDセンターとして連携における知見を深めることができた。 プロジェクト試行や授業づくりの支援には至っていないが、企画の実施によって地域と学校の連携に関する相談対応につながった事例が複数ある。 年5回の開催で、参加対象者を絞ったにも関わらず、2回以上参加した人が多数おり、中には3回以上参加された人もいた。回を重ねるごとに参加者からの意見も増え、現場での意見なども反映、集約することができた。 委員の方々にも複数回参加してもらうことができ(全5回参加いただいた委員の方もいる)、参加者の課題などを、その場でアドバイスしてもらう良い機会になった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 複数回の参加を前提としたことで、参加に対するハードルが高くなってしまった。参加者満足度は高かったものの、特に最終回の学校教員や自治体環境部局の参加者が少なかった。したがって、あまり両者をつなげることができなかった。 また、大阪市内での開催のみだったため、大阪府外からの参加が少なかった。オンライン参加や開催地については検討していく必要がある。 年度当初に想定していたよりも、教育委員会からの参加が少なかった。教育委員会ではESDや気候変動教育に取り組む以前に、たくさん問題に直面しており余裕がないという話もある。現場の状況や教育委員会のニーズ等について情報収集を継続する必要がある。

日程	内容
9/7	<p style="text-align: right;">参加者数:15名</p> <p><主催開催></p> <p>【名称】 2024年度 ESD for 2030 学びあいプロジェクト第1回</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 CANVAS谷町(大阪市)</p> <p>【内容】 奈良市教育委員会の三木恵介氏による事例紹介、参加者間での意見交換</p> <p>【主催】 近畿ESDセンター、近畿事務所</p> <p>【プログラム】 1, 開会、趣旨説明 2, 講演、質疑応答 3, 意見交換会</p> <p>【開催状況】</p> 
10/11	<p style="text-align: right;">参加者数:13名</p> <p><主催開催></p> <p>【名称】 2024年度 ESD for 2030 学びあいプロジェクト第3回</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 CANVAS谷町(大阪市)</p> <p>【内容】 自治体環境部局の参加者による事例紹介、参加者間での意見交換</p> <p>【主催】 近畿ESDセンター、近畿事務所</p> <p>【プログラム】 1, 開会、趣旨説明 2, 事例紹介(6自治体)、質疑応答 3, 意見交換会</p> <p>【開催状況】</p> 
10/20	<p style="text-align: right;">参加者数:18名</p> <p><主催開催></p> <p>【名称】 2024年度 ESD for 2030 学びあいプロジェクト第2回</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 エル・おおさか</p>

	<p>【内 容】 草津市教育委員会の中村大輔氏による事例紹介、参加者間での意見交換</p> <p>【主 催】 近畿ESDセンター、近畿事務所</p> <p>【プログラム】 1, 開会、趣旨説明 2, 講演、質疑応答 3, 意見交換会</p> <p>【開催状況】</p>	
11/18	<p><主催開催></p> <p>【名 称】 2024年度 ESD for 2030 学びあいプロジェクト第4回</p> <p>【形 態】 ハイブリッド</p> <p>【場 所】 エル・おおさか</p> <p>【内 容】 第1回から第3回までの振り返り、第5回開催に向けた意見交換</p> <p>【プログラム】 1, 開会、趣旨説明 2, 意見交換会</p> <p>【開催状況】</p>	参加者数:13名
12/26	<p><主催開催></p> <p>【名 称】 2024年度 ESD for 2030 学びあいプロジェクト第5回</p> <p>【形 態】 対面</p> <p>【場 所】 エル・おおさか</p> <p>【内 容】 第1回から第4回までの内容の共有、令和7年度以降の活動計画案の作成および参加者間でのフィードバック</p> <p>【主 催】 近畿ESDセンター、近畿事務所</p> <p>【プログラム】 1, 開会、趣旨説明 2, 第4回までの振り返り 3, グループワーク、成果発表</p>	参加者数：13名

【開催状況】



② ノウハウの共有と推進に関する方策の検討

日程	内容
7/25	<p><会議参加> 参加者数:不明</p> <p>【名称】 令和6年度 第1回気候変動教育作業部会</p> <p>【参加者】 地方ESDセンター、ESD全国センター、環境パートナーシップ会議、環境省、地方事務所</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 青山ブックセンター(東京都)</p> <p>【内容】 有識者より気候変動教育に関する最新動向について情報提供をいただいた。その後、各地方センターより学び合いプロジェクトについて説明を行った。また、参加者間で意見交換を行った。</p>

③ 活動計画の報告

日程	内容
12/1	<p><協力開催> 参加者数:不明</p> <p>【名称】 ESD推進ネットワーク全国フォーラム2024:気候変動×〇〇～点から線、線から面へのつながりづくり～</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)</p> <p>【内容】 環境教育・ESD実践動画100選認定証授与式、ポスターセッション、基調講演、パネルディスカッションが行われた。また、近畿ESDセンターとして今年度の学びあいプロジェクトの報告を行った。</p> <p>【主催】 ESD活動支援センター、文部科学省、環境省</p>

(7) ESD活動に関するネットワークの構築

① ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢層の多様なセクターがフォーラムに参加し情報交換できる場を設定する 多様なESD実践者が一堂に会する場となる
事業総括	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校関係者だけでなく、学校と連携したいNPO/NGOや企業など多様な方からの参加が得られた。また、10代から70代の方まで、幅広い年齢層からの参加があった。 多様な分野のESD実践者がつながり、情報交換を行うことができた。熱心なESDの実践者は近い熱量を持った実践者がいないこともしばしばある。そうした実践者同士をつなげられる機会となった。 学校との連携の糸口を探している参加者に対し、学校の状況や教員の考え方を伝えることができた。 グラフィックレコーディングを取り入れたことにより、視覚でも講演内容を確認することができ、参加者が自身の職場や活動しているフィールドへ持ち帰りやすく、周りへの共有がしやすかったとの声があった。

課題	<ul style="list-style-type: none"> • 集客のタイミングなどが悪く、参加者における社会教育関係者の割合が低かった。社会教育関係者にも直接広報し興味を持ってもらえるよう、つながりを作っていく必要がある。 • 本企画をきっかけとした協働についてはまだ確認できていないため、イベント終了後も参加者へ密接にコミュニケーションを取っていく必要がある。
----	---

日程	内容
1/26	<p style="text-align: right;">参加者数:59名</p> <p><主催開催></p> <p>【名称】 近畿地方ESD 推進ネットワーク地域フォーラム2024 「子どもたちと地域のかかわりから始まる、もっとおもしろいESDの学び」</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 OMMビル(大阪市)</p> <p>【内容】 2024年度の学びあいプロジェクトについての共有、ESD 実践者による事例紹介及びパネルディスカッション、令和6年度環境教育・ESD実践動画100選授与式、参加者ネットワーキング</p> <p>【主催】 近畿ESDセンター、近畿事務所</p> <p>【後援】 滋賀県教育委員会、京都府教育委員会、大阪府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、和歌山県教育委員会</p> <p>【プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 開会、趣旨説明 2, 学びあいプロジェクトの報告 3, ESD 実践者による事例紹介及びパネルディスカッション① 4, 令和6年度環境教育・ESD実践動画100選認定書授与式 5, ESD 実践者による事例紹介及びパネルディスカッション② 6, 参加者ネットワーキング 7, 閉会 <p>【開催状況】</p> 

② 地域ESD拠点等のESD活動の支援

日程	内容
4/26	<p>【主催】 公益財団法人こども教育支援財団</p> <p>【内容】 行事名「第15回環境教育ポスターコンクール」の後援を行った。</p>
9/9	<p>【主催】 環境省東北地方環境事務所、東北地方ESD活動支援センター、ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム</p> <p>【内容】 企画名「東北ESD/SDGsフォーラム2024 in 福島只見～ホールエリアとしてのESDの推進を求めて～」の後援を行った。</p>
11/7	<p>【主催】 認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会、市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 2025 実行委員会</p> <p>【内容】 企画名「市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 2025」の後援を行った。</p>
12/11	<p>【主催】 近畿 ESD コンソーシアム、奈良教育大学 ESD・SDGs センター</p>

	【内 容】 地域ESD拠点である近畿 ESD コンソーシアムが行った、企画名「2024年度 近畿ESD コンソーシアム成果発表会・実践交流会」の後援を行った。
--	---

③ 地域でESDを推進する拠点のニーズ把握

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域ESD拠点との担当者と改めて直接つながることで拠点支援をしやすくする 	
事業総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> NPO法人愛のまちエコ倶楽部と公益財団法人千里リサイクルプラザにヒアリングを行い、担当者と直接つながることで、2拠点の抱えている現状や課題を知ることができた。 ESDを実践するために事例等について学びたくても、どんな内容でどんな講師を呼んだらいいのかわからないという悩みがあることが分かった。 市町村や学校関係者の異動が多く、せっかくつながった機会を生かすににくいという声を聞くことができた。近畿ESDセンターは異動がないため、地域や学校間の関係構築の部分でもニーズがあると把握できた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に実施したため、まだ相談対応にはつながっていない。 有意義で継続的なつながりにしていくため、イベント開催時などのタイミングで改めてやり取りをする機会を意識して作っていく必要がある。 社会教育施設の好事例の紹介や助言を有識者からいただきたいという声があるため、近畿ESDセンターとしてよりよいESDの実践を推進できるよう講師の派遣ができる仕組みがあるとよい。

日 程	内 容
2/6	<p><ヒアリング></p> <p>【名 称】 NPO法人愛のまちエコ倶楽部</p> <p>【目 的】 課題やニーズ把握を行いESD活動のネットワークを形成する</p> <p>【参加者】 NPO法人愛のまちエコ倶楽部</p> <p>【形 態】 対面</p> <p>【場 所】 あいとうエコプラザ菜の花館</p> <p>【内 容】 ヒアリングを通して、学校との連携状況をはじめとするESDの実践状況について伺い、近畿ESDセンターとの役割分担や連携手法について意見交換を行った。</p>
3/14	<p><ヒアリング></p> <p>【名 称】 公益財団法人千里リサイクルプラザ</p> <p>【目 的】 課題やニーズ把握を行いESD活動のネットワークを形成する</p> <p>【参加者】 公益財団法人千里リサイクルプラザ</p> <p>【形 態】 対面</p> <p>【場 所】 くるくるプラザ</p> <p>【内 容】 ヒアリングを通して、学校との連携状況をはじめとするESDの実践状況について情報交換を行った。その他、近畿ESDセンターに求めることや連携手法について意見交換を行った。</p>

(8) 全国センターとの連携協力の推進等

日 程	内 容
6/13	<p><会議参加> 参加者数:66名</p> <p>【名 称】 令和6年度第1回ESD活動支援センター連絡会</p> <p>【参加者】 地方ESDセンター、ESD全国センター、環境パートナーシップ会議、文部科学省、環境省、地方事務所</p> <p>【形 態】 ハイブリッド</p> <p>【場 所】 GEOC</p> <p>【内 容】 ESDに関する最新動向や地方および全国のESDセンターの今年度の事業内容、行政レビューに対する進捗等について確認した。</p>
6/27	<p><会議参加> 参加者数:20名</p> <p>【名 称】 令和6年度第1回ESDセンター企画運営委員会</p> <p>【参加者】 ESD全国センター企画運営委員会委員、ESD全国センター、文部科学省、環境省(地方ESDセンターはオブザーバー参加)</p> <p>【形 態】 ハイブリッド</p> <p>【場 所】 GEOC</p> <p>【内 容】 今年度の全国ESDセンターの活動内容の説明および意見交換等を行った。</p>

7/24	<p><会議参加> 参加者数:不明</p> <p>【名称】 令和6年度ESD全国ネットワーク団体意見交換会</p> <p>【参加者】 地方ESDセンター、ESD全国センター、環境省、地方事務所、ほかESD団体関係者</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 ビジョンセンター東京日本橋</p> <p>【内容】 有識者よりESDに関する最新動向について情報提供が行われた。また、全国協力団体等からの最新の取組紹介と参加者ネットワーキングが行われた。</p>
7/25	<p><会議参加> 参加者数:不明</p> <p>【名称】 ESD活動支援センターの今後の方策を考える意見交換会</p> <p>【参加者】 地方ESDセンター、ESD全国センター、環境パートナーシップ会議、環境省、地方事務所</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 青山ブックセンター(東京都)</p> <p>【内容】 環境省よりESD及びESD活動支援センター関連事業の進捗報告が行われた。また、全国センターより令和6年第1回ESD活動支援センター企画運営委員会の開催報告が行われた。その他、ESD活動支援センターの今後の方策に関する意見交換を行った。</p>
1/17	<p><会議参加> 参加者数:65名</p> <p>【名称】 令和6年度第2回ESD活動支援センター(全国・地方)連絡会</p> <p>【参加者】 地方ESDセンター、ESD全国センター、環境パートナーシップ会議、文部科学省、環境省、地方事務所</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 GEOC</p> <p>【内容】 環境省、文部科学省の挨拶の後、各地方センターの活動報告を行った。また、令和7年度ESD活動支援センター新規事業についての説明及び意見交換を行った。</p>
2/28	<p><会議参加> 参加者数:不明</p> <p>【名称】 全国ESDセンター企画運営委員会</p> <p>【参加者】 全国ESDセンター企画運営委員会委員、全国ESDセンター、文部科学省、環境省(地方ESDセンターはオブザーバー参加)</p> <p>【形態】 ハイブリッド</p> <p>【場所】 GEOC</p> <p>【内容】 今年度の全国ESDセンターの活動内容の報告および意見交換等を行った。</p>

5 その他協働事業(近畿独自事業)

(1) 近畿事務所開催イベント等の支援・運営等

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が各分科会の取組を知り、分科会への積極的な参加が増える 	
事業総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> 関西SDGsプラットフォーム形成時の経緯や各分科会の取組、問題意識を共有し、分科会を超えた連携に対する期待の高さを確認できた。 きんき環境館主催イベントにも参加してもらえるなど、一定の関係構築の成果があった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 取組事例共有や分科会を超えた交流促進のきっかけの場づくりはできたが、各分科会や参加者間での具体的な連携は把握できていない。

日程	内容
5/29	<p><協力開催> 参加者数:76名</p> <p>【名称】 関西SDGsプラットフォーム分科会交流会VOL.1</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 大阪大学中之島センター</p> <p>【内容】 KSP各分科会の紹介およびネットワーキング</p> <p>【主催】 関西SDGsプラットフォーム、「いのち会議」市民部門</p> <p>【後援】 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)</p> <p>【プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 開会、趣旨説明 2, インスピレーショントーク 3, 分科会発表 4, ネットワーキング 5, 閉会

【開催状況】



(2) その他事業

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> 適切な運営補助業務を行う 	
事業総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> 各分科会の連携を促す場になり、具体的な協働・共催事業等の検討が行われ、今後の可能性の広がりにつながった。 ESDに関する海外事例を知ることで、より深い政策認知や幅広い情報提供を行うきっかけになった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 分科会同士の連携強化にはつながったものの、分科会全体としての今後の方向性や具体的な取組等に関する検討が必要となる。

日程	内容
10/9	<p><協力開催> 参加者数:28名</p> <p>【名称】 KSP分科会交流会内部情報交換会VOL.2</p> <p>【形態】 対面</p> <p>【場所】 大阪大学中之島センター</p> <p>【内容】 KSP分科会内部情報交換会を実施した。各分科会が他の分科会との情報交換を通じ、協働事業、共済事業などの可能性を追求し、結果として23件のコラボ事業の成立などにつながった。</p> <p>【主催】 KSP分科会交流会</p> <p>【プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 開会、趣旨説明 2, ハイブリッドワールドカフェ① 3, ハイブリッドワールドカフェ② 4, ハイブリッドワールドカフェ③ 5, 分科会報告 6, 閉会

【開催状況】



10/27

<協力開催>

参加者数:50名

- 【名称】 第25回日中韓環境教育ネットワーク(TEEN25)シンポジウム
【形態】 対面
【場所】 京都府立大学稲盛記念会館
【内容】 東京大学未来ビジョン研究センター教授 江守正多氏による基調講演、日中韓の政策報告、各国の実践事例報告、パネルディスカッション、学生からのアイデア実践報告が行われた。開催協力として、当日は会場誘導を担当した。
【主催】 環境省、日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)
【共催】 京都府
【後援】 京都府立大学
【プログラム】 1, 開会、趣旨説明
2, 基調講演①
3, 基調講演②
4, 基調講演③
5, 基調講演④
6, 各国の実践事例報告(日本、中国、韓国)
7, パネルディスカッション
8, 学生からのアイデア実践報告
9, 閉会

【開催状況】



(別表) 報告書記載事項

○ 全般

項目	累計	備考
きんき環境館の開館状況		
月間開館日数	239	
月間延べ来場者数	81	
提供サービスの状況		
会議スペースの提供		(提供していない)
図書資料等の提供		回覧のみ受付

○ きんき環境館 (EPO)

項目	累計	備考
1 相談件数	20	環境に関する一般的な質問から業務についての具体的な相談まで、メール、電話、訪問等を通じた相談案件数
2 WEBアクセス数	140,654	月間閲覧数(きんき環境館HP)
3-1 メルマガ登録者数	-	最新登録者数
3-2 メルマガ発行回数	24	
4 機関紙発行部数		(発行していない)
5-1 対話の場づくり数	22	EPOが情報収集や合意形成等の目的で参加したセミナー・委員会・協働団体との会議等
5-2 地域の協議会等への出席	0	5-1のうち、自治体や民間が主催する協議会等へ、EPOとして出席した会合数
5-3 EPO主催・共催の対話の場	15	5-1のうち、EPOが主催・共催した会合数
5-4 主催事業参加者数	620	5-3の会合の総参加者数

○ 近畿ESDセンター (ESDセンター)

項目	0内は累計	備考
1 相談件数	29	環境に関する一般的な質問から業務についての具体的な相談まで、メール、電話、訪問等を通じた相談案件数
2 WEBアクセス数	4,519	月間閲覧数(近畿ESDセンターHP)
3-1 メルマガ登録者数		最新登録者数
3-2 メルマガ発行回数		
4 機関紙発行部数		(発行していない)
5-1 対話の場づくり数	14	ESDセンターが情報収集や学び合い等の目的で参加したセミナー・委員会・協働団体との会議等
5-2 地域の協議会等への出席	0	5-1のうち、自治体や民間が主催する協議会等へ、ESDセンターとして出席した会合数
5-3 ESDセンター主催・共催の対話の場	12	5-1のうち、ESDセンターが主催・共催した会合数
5-4 主催事業参加者数	175	5-3の会合の総参加者数

6 令和6年度 きんき環境館・近畿地方ESD活動支援センター業務計画

令和6年度 きんき環境館・近畿地方ESD活動支援センター 業務計画

地域コーディネーターをつなぐコミュニケーター
きんき環境館

～地域循環共生圏と地域脱炭素に寄与するために～



2024年 6月
NPO法人 エコネット近畿

きんき環境館・ESDセンター 運営体制

岡見 厚志

統括



- <ネットワーク・強いテーマ>
- ・地域コーディネート
 - ・ボランティアコーディネート
 - ・ファシリテーション
 - ・地域循環共生圏
 - ・ごみゼロ

寺岡 剛太

マネージャー



- <ネットワーク・強いテーマ>
- ・中間支援
 - ・ソーシャルビジネス
 - ・ファシリテーション
 - ・団体支援

具志堅 葉子

チーフコーディネーター



- <ネットワーク・強いテーマ>
- ・ピオトープ
 - ・バイオマス
 - ・自然農
 - ・里山
 - ・自然環境保全
 - ・データ調査
 - ・各地の取組み事例
 - ・林業

堀 孝弘

チーフコーディネーター



- <ネットワーク・強いテーマ>
- ・環境NPO/NGO
 - ・廃棄物
 - ・環境基本計画策定支援
 - ・行政
 - ・大学

小路 楓

コーディネーター/ESDセンター担当



- <ネットワーク・強いテーマ>
- ・ESD
 - ・高校の総合探究
 - ・ファシリテーション
 - ・グラフィックレコーディング
 - ・EPOネットワーク (元EPO北海道職員)
 - ・河川生態系

小山 絵美子

スタッフ/広報担当



- <ネットワーク・強いテーマ>
- ・動画配信
 - ・広報
 - ・SNS/HP
 - ・フリースクール

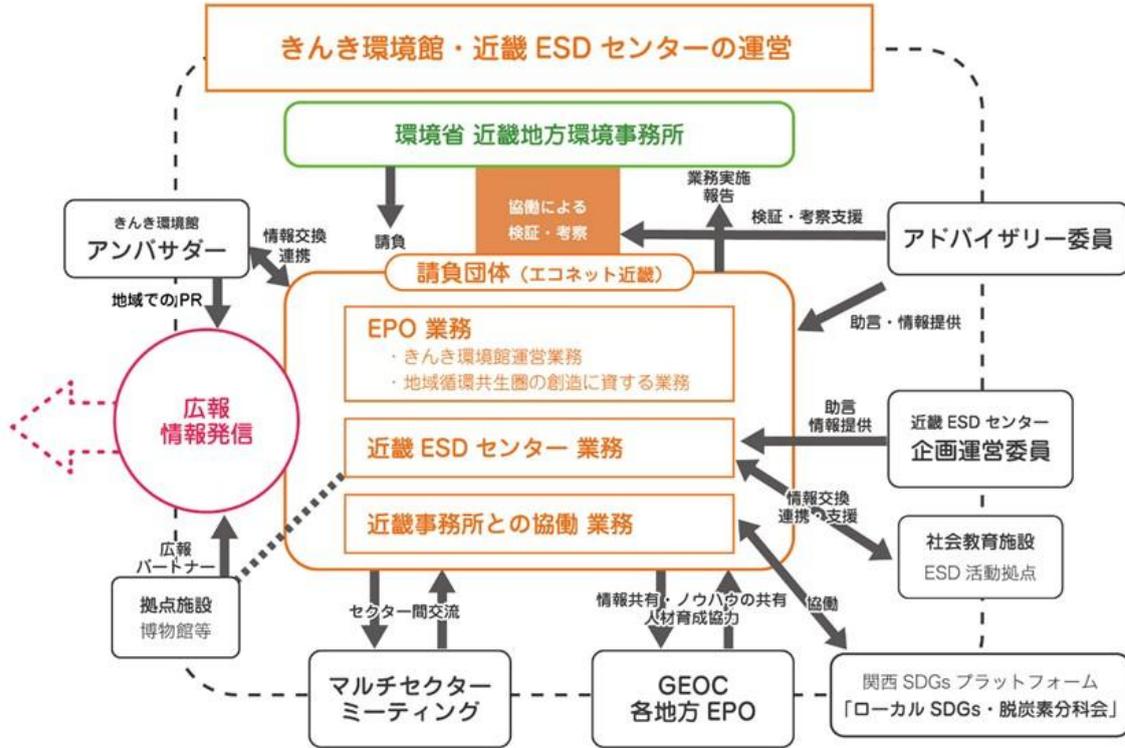
山下 比呂

スタッフ



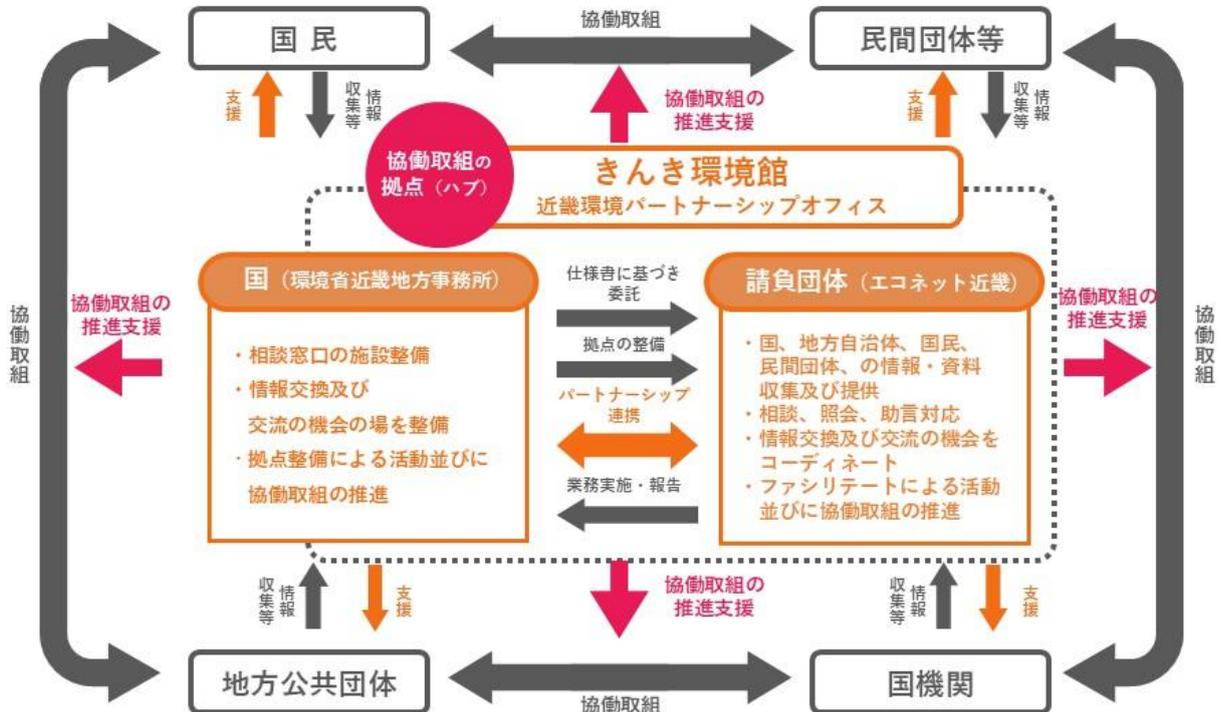
- <ネットワーク・強いテーマ>
- ・助成金、資金調達
 - ・団体支援
 - ・会計 (NPO会計)
 - ・オンライン配信/ハイブリッド配信

ステークホルダーを含む運営体制図（イメージ）

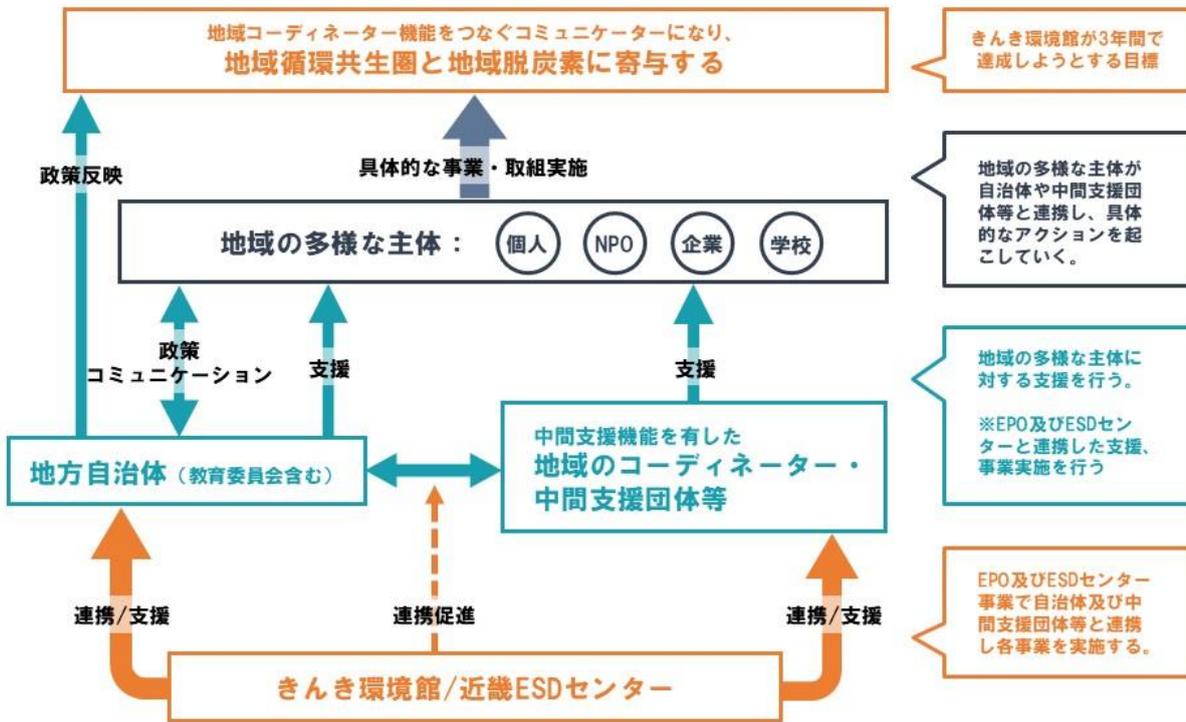


協働取組の拠点（ハブ）としての役割

環境パートナーシップオフィスは、2003年に施行された環境教育等促進法（公布時は環境保全活動・環境教育推進法）に基づき全国に8か所設置された「環境保全の意欲の増進の拠点」であり、さらに2011年には、環境を軸とした成長を進める上で、環境保全活動や行政・企業・民間団体等の協働がますます重要になっている（「環境教育等促進法への改正の概要」より）ことから「協働取組の拠点」としての役割も付加された。

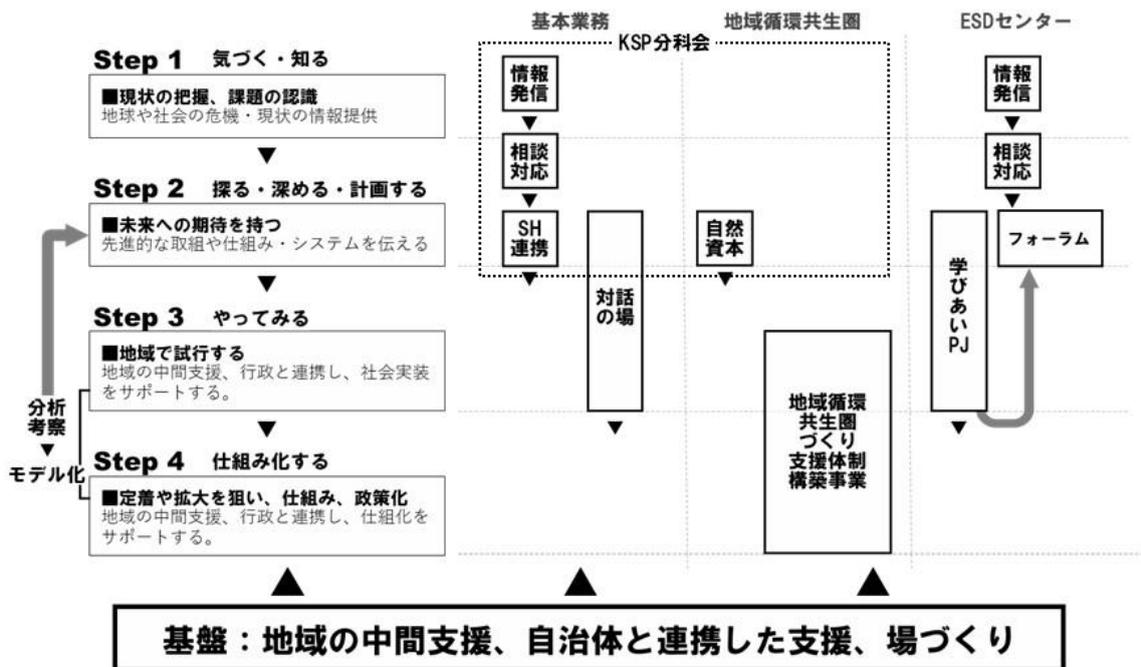


きんき環境館及び近畿ESDセンターにおけるビジョン実現へのアプローチ



5

きんき環境館及び近畿ESDセンターのビジョン達成に向けたステップ



6

きんき環境館及び近畿ESDセンターの課題

課題①

中間支援機能、行政との信頼関係に基づいたつながりが希薄



事業・取組を行う際に、中間支援、行政とのつながりを意識する

互いに認知さえできていない。
情報収集、現地訪問の必要性

課題②

情報提供と場づくりに留まり、社会実装の支援が不十分



モデル性のある事業・取組の試行をサポートする

モデル化するための分析・考察を
いただくパートナーが必要

7

3年間の成長ステップ（イメージ）

1年目

多様な組織や個人への徹底的なヒアリングを行う



各地域、各セクターとのネットワークを再構築

令和5年度

「調べる」

地域の多様な組織をヒアリング調査
①地域コーディネーターを把握
②困りごと・ボトルネックを把握



「働きかける」

①広報などの協力を依頼
②個別の支援方法について検討



「つなぐ」

①KSP分科会
②マルチセクターボード

2年目

中間支援機能や地方自治体と協働での事業実施を意識する



いくつかの試行事例を支援し、その事例の分析・考察を行い、広げる

令和6年度

「調べる」

①各地域の中間支援機能の整理・把握
②自治体へのアンケート等の実施
③担当者間の関係性を強化



「働きかける」

①地域の中間支援機能や自治体と協働
②地域ニーズに基づいた場づくり支援



「つなぐ」

①試行事例の支援、分析、考察
②アンバサダー制度の検討

3年目

中間支援機能や地方自治体と協働での事業実施や仕組みづくり



きんき環境館の支援により生まれた事業や仕組みが社会実装に向かっている

令和7年度

「調べる」

①各地域の中間支援機能の整理・把握
②自治体へのアンケート等の実施
③担当者間の関係性を強化



「働きかける」

①地域の中間支援機能や自治体と協働
②地域ニーズに基づいた場づくり支援



「つなぐ」

①試行事例の支援、分析、考察
②アンバサダー制度等の導入

4年目以降

近畿エリアにおける地域循環共生圏と脱炭素ドミノを牽引する

8

ネットワークの「広がり」と「深まり」の進め方のイメージ

ネットワークの「広がり」や「深さ」は業務内容や関わった時間により異なり、数値化、共有化することが難しい。そこで、以下のようなルールに基づき「関係性」や「深さ」を「レベル」という形で見える化し、量的な「広がり」と質的な「深まり」に集約する。見える化したリスト（人財データベース）は、スタッフ間で共有することで有効に活用する。

ネットワークレベル (Lv)

Lv1

イベントなどを通じて開拓、交流した関係者

Lv2

メールマガジンなどを通じて定期的な情報交換を行っている関係者

Lv3

定期的なコミュニケーションなどを通じて担当者間の人間関係が形成されている

Lv4

イベント登壇、伴走支援、取材などを通じて組織の内容、得意分野などについて共有している

Lv5

事業等の協働開催を通じて密な関係性が出来ている

9

基本 業務

きんき環境館アドバイザー委員会の設置・開催等

仕様書番号 3-(2)

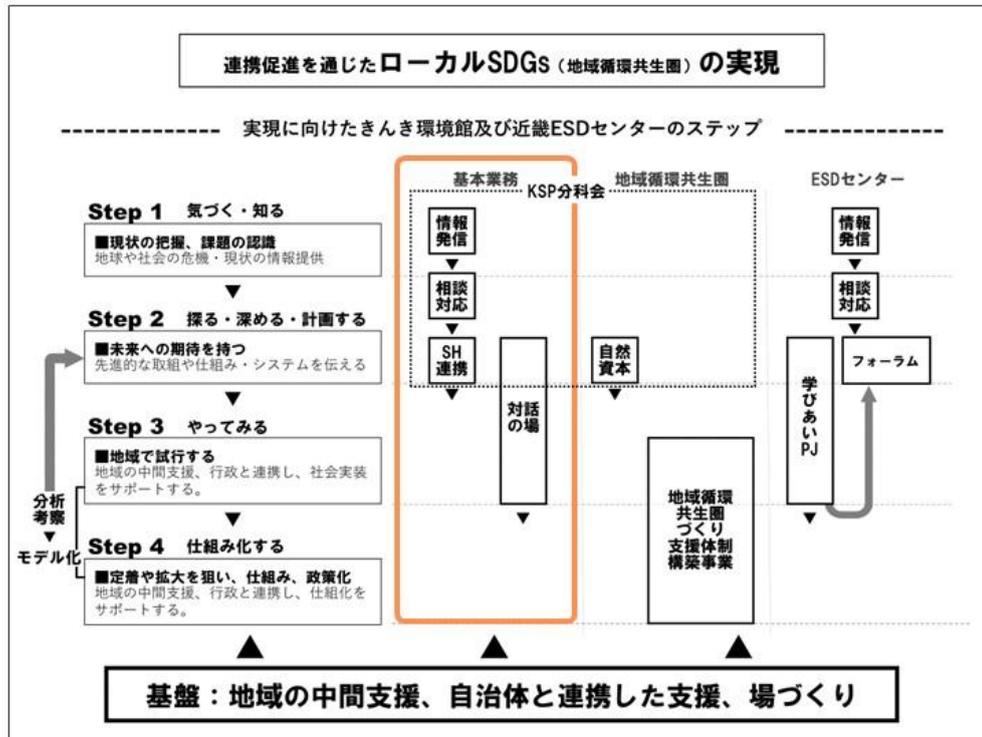
事業内容

本業務の実施にあたっては、幅広い関係者の参画を得て事業を推進するため「アドバイザー委員会」を設置のうえ会議を年2回程度開催し、事業実施計画（案）等について議論する。

秋田 大介氏	株式会社イマゴト 代表取締役
黒田 桂菜氏	大阪公立大学 准教授
田口 真太郎氏	成安造形大学 未来社会デザイン共創機構 研究員 講師
永井 美佳氏	社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務 理事／事務局長
新川 達郎氏	同志社大学 名誉教授
森 伊知郎氏	Future Creation Lab.オブリガード 代表



10



11

課題	目標	成果指標
Web サイト等を活用した情報の受発信	Web サイト等を活用した情報の受発信	Web サイト等を活用した情報の受発信
<ul style="list-style-type: none"> Webサイトのスマホ・タブレット対応がされていない Webサイトやパンフレットにおいて、各事業の関係性が見えづらい Webサイト以外の媒体へのアクセスが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> スマホ・タブレット対応のWebサイトに変更する きんぎ環境館の事業概要が理解できるよう、各事業の関係性がわかる工夫を行う 媒体毎のターゲットや掲載内容の整理を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問者数がホームページ改定前後で10%増える Facebookのインタラクション数(投稿に対するリアクション数)が2倍に向上する。
相談対応・対話の場作り等	相談対応・対話の場作り等	相談対応・対話の場作り等
<ul style="list-style-type: none"> 相談案件のその後の進捗確認含めたフォローアップが不足している 令和5年度に実施したマルチセクターボードでは、対話の深まりが得られなかった 政策化の手法を学ぶことに留まった 	<ul style="list-style-type: none"> 相談終了後の進捗確認について方策を検討し、試行する 令和5年度の参加者をベースに引き続き対話を深める 手法の学びに留まらず、試行実施の支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 相談終了後の進捗を確認し、2件以上記録する 対話が深まり、具体的な行動に向けて動き出している(1件以上) 1件以上の試行実施の支援
ステークホルダー連携促進事業	ステークホルダー連携促進事業	ステークホルダー連携促進事業
<ul style="list-style-type: none"> 中間支援主体、行政との信頼に基づいたつながりが希薄 	<ul style="list-style-type: none"> 各イベント等を実施する際に行政や中間支援主体との連携を意識する(単独でのイベント実施等を極力避ける) 	<ul style="list-style-type: none"> 中間支援主体及び行政と連携した事業実施を各1件以上行う

12

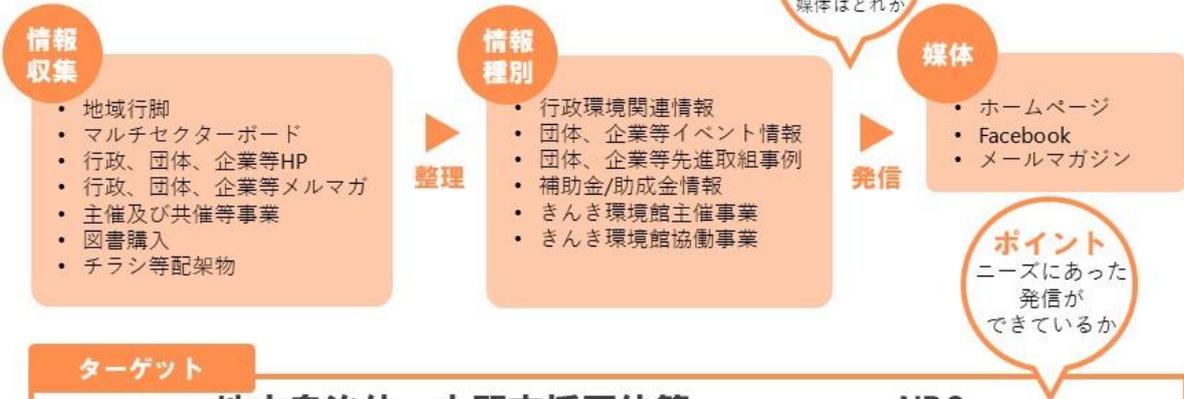
ホームページの改訂

- きんき環境館の事業概要が伝わるようなHPの構成を検討する
- 使用されていない項目を削除し、ユーザーの混乱を減らす
- スマホ・タブレットに対応したHPに更新する

パンフレットの作成

- きんき環境館の事業概要が伝わるようにパンフレットを作成する
- 近畿ESDセンターのパンフレットと合わせることで、2つの事業の関係性を認識しやすくする

的確な情報発信に向けた情報の整理及び媒体の選定



ターゲット

地方自治体、中間支援団体等（施設、個人含む）、NPO、企業、学生、市民

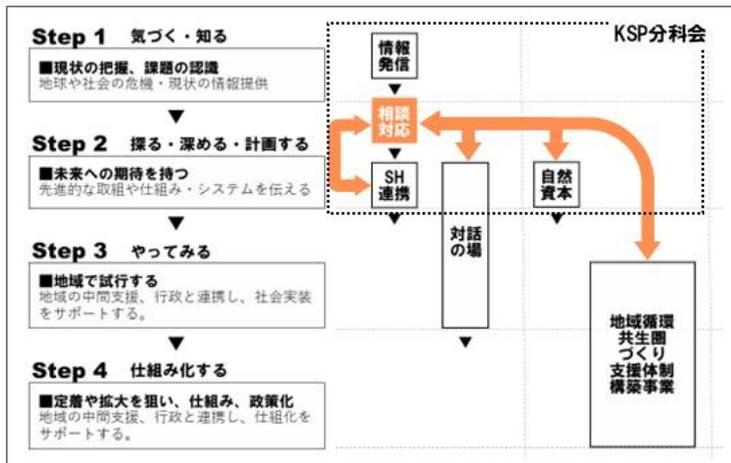
相談対応

現状

- 相談件数は増加傾向にあるが、相談終了後どのように進捗しているかを確認するフォローアップが不足しているため、いくつかの案件のフォローアップを行いたい。

実施内容

- チームでの相談業務の把握
週1回以上の相談業務の内容共有。
- データ等でのカルテの集約
相談内容をカルテとしてデータベース化し管理する。
- 丁寧なフォローアップ
相談対応終了後も適宜フォローアップを行う。



各種会合への参加等

- 情報収集等を目的に、各種会合へ適宜参加する。

現状

令和5年度のマルチセクターボードでは、特に自然資本関連のテーマについて活発な意見交換を行うことができたため、令和6年度についても自然資本をテーマに実施する。

自然資本の利用に関わる産業は持続可能な利用に向けた変革が必要とされているが、消費者の意識改革やサプライチェーンの再構築など、一事業者だけの努力ではなかなか進まない現状がある。

実施内容

マルチセクターボードは、業界や地域の方々を招き、トレンド、取組内容を聞き、地域ニーズと課題を把握することで、効果的な支援方法を検討することを目的に令和5年度から開催してきた。令和6年度は、令和5年度に招いた方々を中心に引き続き議論を深める。自然資本の利用に関わる産業のさまざまな分野の現状や、持続可能な利用に向けた変革や人材育成の未来を共有しあい、それぞれが課題解決に向けた行動を起こすことのできる場をつくる。

実施詳細

EPO① 一次産業に関わる実践者

「現場からのアイデア」

【実施時期】8月22日（木）10:00～12:00

【参加者】6名程度

令和5年度に集まった林業、漁業に、ジビエの分野を追加

山林：（有）ウッズ、大阪府森林組合、（株）RE-SOCIAL、林業女子会

川海：大阪市漁業協同組合、武庫川渡船、琵琶湖博物館「うおの会」

有識者：人と自然の博物館（ひとはく）、京都産業大学、滋賀県立大学

【開催地】きんき環境館

EPO② 自然体験（人材育成）に関わる実践者

「流域思考を持つ人の育成・配置」

【実施時期】12月19日（木）10:00～12:00

【参加者】6名程度

山林：（有）ウッズ、大阪府森林組合、（株）RE-SOCIAL、林業女子会、のあつく自然学校

川海：大阪市漁業協同組合、武庫川渡船、琵琶湖博物館「うおの会」

有識者：人と自然の博物館（ひとはく）、京都産業大学、滋賀県立大学

【開催地】きんき環境館

15

現状

官民間の意思疎通や情報伝達・交換や、実施、評価、改善など政策形成に至るさまざまな対話・参加のプロセス（=政策コミュニケーション）を多様なセクターの関係者・活動実践者と共有する場は多くない。

全国的に注目を集めている政策コミュニケーション手法である「気候市民会議」だが、近畿においては、まだ主だった実施事例はない。

実施内容

近畿圏における多様な気候市民会議の開催を目指す。住民自治向上と、地域のコーディネーター機能を持つ人・組織・施設の支援を見据え、政策コミュニケーションをテーマにした対話の場を開催する。また、必要に応じて気候市民会議の開催のための支援を行う。

実施詳細

気候市民会議の多様な開催を考えるワークショップ

【実施日時】2024年4月19日（金）14時～17時

【内容】参加者による企画提案および話題提供

【参加者】5名

- ・いばらき気候市民会議企画チーム
- ・阪急阪神ホールディングス
- ・NPO法人 a little
- ・京都市立洛西高等学校

【開催地】大阪大学中之島センター

パートナー

大阪大学COデザインセンター

公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）

大阪大学ELSIセンター

気候市民会議の多様な試行実施の支援

左記のワークショップから生まれたアイデアをもとに、気候市民会議の多様な試行実施を支援する。

年間2件程度を想定。

16

現状

官民間の意思疎通や情報伝達・交換や、実施、評価、改善など政策形成に至るさまざまな対話・参加のプロセス（=政策コミュニケーション）を多様なセクターの関係者・活動実践者と共有する場は多くない。
令和5年度は、政策化の手法の情報交換が主だったため、地域での実践行動にまで移ることは難しかった。

今年度は以下を目的に実施する。
・プラスチック問題への対応について、自治体担当者が抱えている課題の実態を把握する。
・府県の枠を超えて担当者が課題を持ち寄り、情報交換を通じて解決策を見出す場を創出する。
・近畿圏内に限らず、市町村が関わるプラ削減活動の実現プロセスについて、担当者に情報提供できる機会を創出する。
・地域課題にあわせたプラスチック問題への取組が発案され、実施されるきっかけづくりに寄与する。

パートナー

大阪ボランティア協会 同志社大学
あどぼの学校 など

実施内容

イベントの告知とあわせて「プラスチック問題への対応をお尋ねするアンケート」を送付し、その回答内容を考慮して、イベント内容、進行方向を調整する。

<イベント前半>

・上記「プラスチック問題への対応をお尋ねするアンケート」の結果報告共有。

・おもに近畿圏内で実績をあげている行政・事業者・市民団体の協働によるプラスチック削減事業について、実現プロセスを含めた事例紹介（3事例程度）。

<イベント後半>

・参加者ワーク（実現したいことと、そのためにどのような人・団体との連携が必要か）

・ネットワーキング（共通の課題を持つ他市担当者との今後の交流機会の創出）

実施詳細

【実施時期】11月後半または1月下旬
平日13:30-16:30を想定

【参加者】30名程度

【開催地】大阪市内

17

現状

地域課題の解決や持続可能な社会を目指して、環境省は地域循環共生圏を提唱・推進し厚生労働省は「地域共生社会」に向けた取組を進め、内閣府は「小さな拠点」の形成を推進している。これらは、別々の府省の取組ではあるがそれぞれ情報共有、連携することにより様々な相乗効果やシナジーが得られると考える。

実施内容

厚生労働省等、他府省庁との連携によりイベントを実施する。対象は、各府省庁と連携のある地方自治体や活動団体、企業等。ひとつの府省の施策だけでは支援できない地域の取組も府省庁を横断して地域を見ることで、より多面的な支援につながるということを参加者に伝える。

実施詳細

KSP分科会基幹イベント

【実施時期】2024年11-12月頃

【内容】各府省庁から先行事例の発表

【参加者】70名程度

- ・自治体環境部局や福祉部局の職員
- ・地域活動団体
- ・企業

【開催地】大阪市内を想定

パートナー

厚生労働省
内閣府
経済産業省
国土交通省
財務省 等を想定

18

基本業務

地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業 KSP分科会基幹イベント（中間支援）

仕様書番号 3-(3)-③

現状

地域循環共生圏に取り組む団体間の交流はこれまでも全国事務局が開催し、行われてきたが地域循環共生圏に取り組む団体と地域循環共生圏に関心のある中間支援主体が交流をする機会は多くなかった。

実施内容

地域循環共生圏に取り組む活動団体及び関係者の「中間共有会」に併せて、地域循環共生圏に関心のある中間支援主体を集めて交流を行う。実際に地域循環共生圏の中間支援に取り組んでいる団体との交流を通して、地域循環共生圏に取り組むイメージを具体化し、新たに地域循環共生圏に取り組む地域が生まれることを狙いとする。

パートナー

地域循環共生圏に取り組む中間支援主体

エネシフ湖北

梅小路クリエイティブプラットフォーム

TOMOSU

実施詳細

KSP分科会（中間支援）

【実施時期】11月下旬・1泊2日（2日目は希望者のみのエクスカージョンを想定）

【内容】中間支援主体の取組紹介、交流タイム、現地視察

【参加者】80名程度（対面：50名程度、オンライン30名程度）

地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の参加3団体＋興味ある中間支援主体など

【開催地】滋賀県大津市及び長浜市西浅井

先進事例の紹介

中間支援主体の掘り起こし

19

基本業務

地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業 プラスチックごみゼロ宣言自治体などを対象にした実態調査

仕様書番号 3-(3)-③

現状

- 令和5年度のきんぎ環境館運営業務の中では、自治体との接点を持つ機会が少なく、自治体の調査等も行う機会がなかった。
- 近畿圏内には、2019年に開催されたG20おおさかサミットを機に、プラスチックごみゼロ宣言を発出した自治体が多く、その数は全国的に見ても多い。しかしながら、それらの自治体をはじめ、近畿圏内自治体のプラスチックごみに関する活動実態が把握できていない。中には「何ができるか」わからないため、地域住民や事業者に向けた「呼びかけ」や「地域清掃」とどまっている自治体もあると思われる。

実施内容

近畿圏内自治体のプラスチック問題への対応等および課題認識について把握するためのアンケートを、パートナー各氏とともに設計し送付する。
アンケート結果を分析し、必要によっては訪問ヒアリングを実施する。
ヒアリング訪問先自治体に、状況に応じて必要な支援を行う。

パートナー

大阪ボランティア協会	同志社大学
あどぼの学校	豊中アジェンダ21
いけだエコスタッフ	アジェンダ21すいた
大阪ごみ減量推進会議	など

実施詳細

【実施時期】

8月～9月頃：自治体アンケートの送付、回収、分析

9～10月頃：自治体ヒアリング

11月頃：政策コミュニケーション（プラスチック資源循環）事業で開催予定の自治体職員限定の情報交換会にアンケート結果を反映させる。

【実施対象】

近畿2府4県、政令4市およびプラスチックごみゼロ宣言発出自治体等 計約40自治体程度

本アンケート及びヒアリングは、P17「相談対応・対話の場作り等 B. 対話の場作り政策コミュニケーション プラスチック資源循環」と連動して行います。

20

基本業務

地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業 市民連携・ライフスタイル事業

仕様書番号 3-(3)-③

現状

- 令和5年度の事業では、中間支援団体との連携事業はあったが自治体との連携事業がなかった。当事業を通して、自治体との連携事業のノウハウを蓄積したい。
- 全国の消費者団体や行政、流通事業者が取り組んできた「買い物袋持参運動」は、2020年7月の全国レジ袋有料化の実施という大きな成果を生んだ。ただ、「レジ袋有料化」はゴールではなく、まだ多くの使い捨てプラスチックが使用されている。
- 市民団体、行政、事業者の協働によって、「買い物袋持参運動」を発展させた活動を創出する必要がある。

パートナー

滋賀県琵琶湖環境部 循環社会推進課
公益財団法人淡海環境財団
しがローカルSDGs研究会
MLGs協働テーブル
滋賀県買い物ごみ・食品ロス削減推進協議会

実施内容

滋賀県内の自治体が行っている地域住民や事業者（特に流通事業者）との協働活動の実態を県および県内市民団体等へのヒアリング等で把握する。

滋賀県の実情に応じ、パートナー間の協働を促し、「新たな活動」がセクターを超えた協働で進むように支援する。

年度内に、パートナーが県内いずれかの市町で「新たな活動」をモデル的に実施し、成果をまとめる。活動内容を整理し、県内外への活動成果の普及をはかる。

実施詳細

【内容】 パートナーとの協働により以下の事業を実施（サポート）する。

【実施時期】

5~7月 県内自治体や市民団体の実情調査

8月 「買い物からプラごみ減らし」実践行動を行政、事業者等に提案

10月 滋賀県発「買い物からプラごみ減らし」事業のお披露目の開催

1~3月 「買い物からプラごみ減らし」の実践

3月中 モデル地域での事業の効果測定

【実施対象】

市民団体、自治体、事業者（滋賀県内を中心とし他府県も）

21

基本業務

地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業 サーキュラー・エコノミーに関する研究・検討会

仕様書番号 3-(3)-③

現状

- 国としての新たな制度を企業に対して伝える場の設定を令和5年度は実施していなかった。新たな制度を伝える場を通じて、きんき環境館として参加者との新たなネットワークを築きたい。
- プラスチック汚染防止条約やプラスチック製品認定制度など、プラスチック製品の管理に向けた社会の関心および適切なリサイクルの重要性は今後もますます高まるものと思われる。
- 一方、これまで社会をあげて実現を目指してきた「循環型社会」と、EU等で議論が深まっている「サーキュラー・エコノミー（循環経済）」との混同も多く見受けられる。

パートナー

公益財団法人 廃棄物・3R研究財団

実施内容

廃棄物・3R研究財団からプラスチック汚染防止条約やプラスチック製品認定制度など、プラスチック製品の管理に向けた社会的な動向について、報告を受ける。

あわせて、海外のサーキュラー・エコノミー（循環経済）の動向に詳しい研究者から報告を受け、今後の事業活動への影響等について情報提供を受ける。決して経済活動への制約だけでなくビジネスチャンスでもあり、その機会を活かすための準備が必要であることを伝えてもらう（ここまで前半）。

後半は、参加者間の交流を行う。企業の環境問題担当者が抱える共通課題として、今回のような情報収集の機会があった場合、「社内でもどのようにフィードバックしていくか、自分事化してもらえるのか」について、好事例や、課題も織り交ぜながら議論してもらう。

実施詳細

【実施時期】 10月11日(金)

【開催地】 大阪市内

【参加者】 50名程度

最新の経済動向、特にサーキュラー・エコノミーに関する国内外の動向から、新たなビジネス機会の創出や、SDGsの実践について検討している事業者。

22

基本業務

地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業 若手ローカルSDGs実践者を集めるネットワーキング

仕様書番号 3-(3)-③

現状

関西圏はユース（10代～30代）のプレイヤーが多いがコロナ禍の影響もあり横のつながりが希薄になっている。また、活動の知見をもったユースを支援したい主体、ユースの活動に興味のある方がたくさんいるにもかかわらず、あまりユースとの連携・協働につながっていない。

登壇者案

- ・奈良教育大学ユネスコクラブ
- ・エコ〜んど京大
- ・政所茶レン茶[®]
- ・奈良市総合政策課
- ・OSHIN Tech
- ・一般社団法人インパクトラボ
- ・次世代ユネスコ国内委員会

実施内容

関西圏におけるユースのネットワーキングを行うと同時に、ユースを支援する主体とつながるための場づくりを行い、ユースの取組の活発化と協働の機運醸成を図る。

実施詳細

【実施時期】9月

【内容】

- ・ローカルSDGsに取組むユース活動の支援団体からの事例の紹介（ピッチ形式）
- ・ローカルSDGsに取組むユース活動団体による事例の紹介（ピッチ形式）
- ・ローカルSDGsに取組むユース活動団体による交流
ユースがネットワークを構築し、参加者との交流により取組みをブラッシュアップができる機会とする

【参加者】70名程度

取組みを行う（行いたい）ユース、ユースを支援している方（支援したい方）

【開催地】大阪府内（茨木市周辺想定）

23

基本業務

地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業 中間支援団体へのインタビュー

仕様書番号 3-(3)-③

現状

地域における中間支援機能は、地域循環共生圏の取組が進むうえで非常に重要になっている。近畿における中間支援機能を有した組織や施設は複数あるものの、それぞれの機能についてまとめて紹介されている媒体はない。

実施内容

中間支援として、地域のどんなステークホルダーと連携し、どのような取組を行っているのかについてインタビューする。その中で課題となった点や、対策、支援内容等をまとめて、きんぎ環境館のHPを通して発信する。（団体によっては、活動団体と中間支援団体の分け目なく取組みを進めている場合もあることに注意し、取材を行う）組織の規模の大きさや、対象地域、セクター等を分けることにより、様々な事例を紹介したい。

インタビュー対象（案）

- ・人と自然の博物館（兵庫県）
- ・京エコロジーセンター（京都府）
- ・天王寺動物園（大阪府）
- ・公益財団法人 淡海環境保全財団（滋賀県）
- ・森と水の源流館（奈良県）
- など

合計6記事程度を想定

24

基本業務

- ・全国事業に関わる業務
- ・EPO ネットワークとの情報交換会
- ・施設の維持・管理

仕様書番号
3-(3)-④,⑤,⑥

④全国事業に関わる業務

- ・協働取組の効果最大化に関する検討を行う会議（1回）
- ・全国EPO連絡会（3回）

⑤EPOネットワークとの情報交換会

- ・EPOネットワークの強化に関するミーティング（1回）

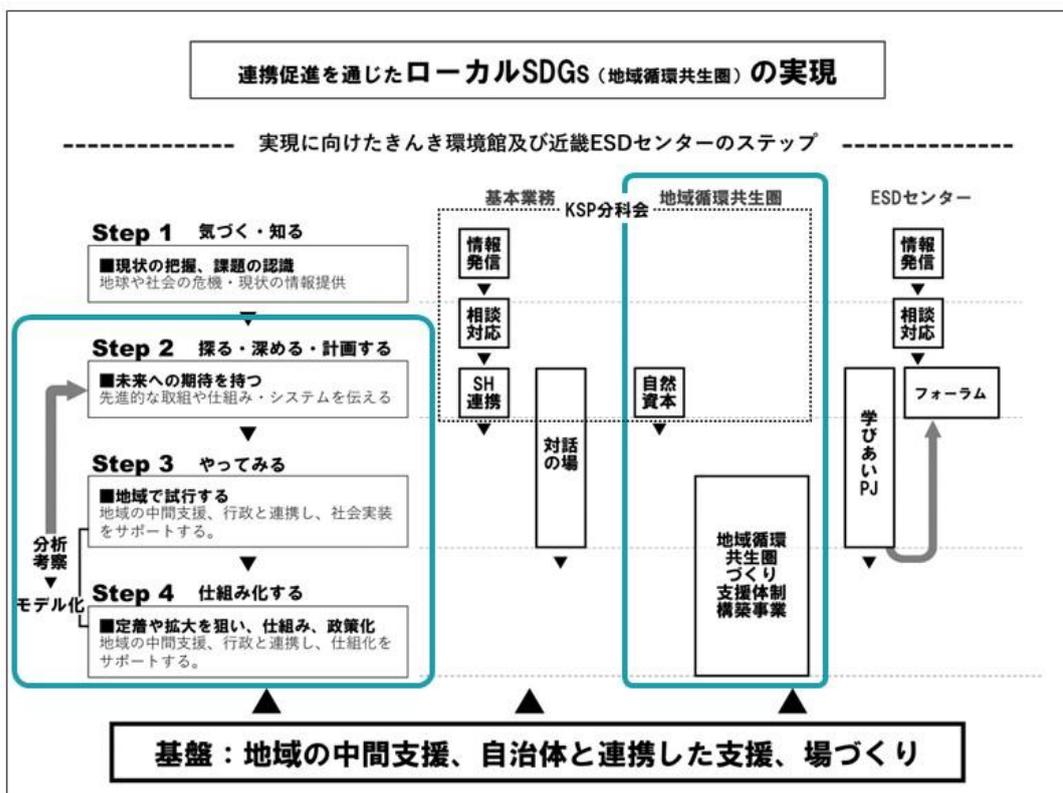
⑥施設の維持・管理

- ・他団体の発行する機関誌等の配布スペースの確保
- ・相談場所の提供を行う

地域循環

「地域循環共生圏の創造に資するための推進業務」の業務目標

仕様書番号 3-(4)



課題	目標	成果指標
<p>地域循環共生圏づくり支援体制構築事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業の参加団体が既に実施している支援機能について、地域循環共生圏づくりに向けた中間支援機能として認識・整理できていない 令和6年度における本事業の応募団体が6団体と少なく、近畿圏内の中間支援機能を持つ主体の活動が、地域循環共生圏づくりに繋がっているという認識が薄いと考えられる <p>自然資本の活用に関する意見交換会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> R6本事業の応募団体6団体のうち、自然資本の活用に関する団体は2件と少なく、近畿圏内の地域循環共生圏づくりの活動が自然資本の活用に関わっていないと考えられる <p>情報収集及び提供ならびに関係性構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間支援主体、行政との信頼に基づいたつながりが希薄 	<p>地域循環共生圏づくり支援体制構築事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏づくりの中間支援主体が中間支援機能を獲得し、地域循環共生圏づくりの中間支援を実施できるようにするための支援を行う 中間支援機能を持つ主体を発掘し、地域循環共生圏づくりの中間支援機能の担い手となるよう後押しする <p>自然資本の活用に関する意見交換会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然資本の活用に関する先進的な取組や仕組み・システムを伝え、共感する中間支援主体、活動団体を掘り起こす <p>情報収集及び提供ならびに関係性構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ヒアリング等を通して、各地域コーディネーターとの更なる関係構築を目指す 	<p>地域循環共生圏づくり支援体制構築事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加3団体の中間支援主体の月次報告書において、見立てと打ち手の欄が的確に記入できている 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に興味を持つ中間支援主体1件以上と新しい繋がりができる <p>自然資本の活用に関する意見交換会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に興味を持つ自然資本の活用に関する中間支援主体あるいは活動団体1件以上と新しい繋がりができる <p>情報収集及び提供ならびに関係性構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 9Pに図示したネットワークレベルのLv3及びLv4をそれぞれ、令和6年度の増加分の人数で、100人、50人の増加を目指す



※卒業団体：地域循環共生圏プラットフォーム業務で環境整備、支援チーム派遣又は事業化支援を終了した環境整備・事業化支援を終了した団体

実施内容

活動団体間の交流の場づくり（2回）

取組を相互参照した団体間のノウハウ交流や学びあいにより、活動団体同士の関係性を構築するため、さらに関係者が活動団体の活動状況を把握するために、近畿ブロック内で活動する活動団体を対象とした交流会を、事業期間の最初と中間時に開催する。

実施詳細

「キックオフミーティング」

【実施日時】6月14日（金）15:00～18:00

【内容】

- ・活動団体の取組紹介（10分×3団体）
- ・中間支援主体からの応援メッセージ（3分×3団体）
- ・参加者からの質疑応答、事業化手法の意見交換（10分×3団体）
- ・交流タイム（20分×3セッション×5グループ）

【参加者】30名程度

地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の参加3団体

【開催地】京都リサーチパーク

先進事例の紹介

仕組みの意見交換

「中間共有会」

【実施時期】11月の平日

【内容】活動団体の取組紹介、交流タイム

【参加者】30名程度、地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の参加3団体+興味ある活動団体、企業、行政など

【開催地】滋賀県長浜市（検討中）

先進事例の紹介

29

実施内容

情報の収集・蓄積と活用（7回）

全国のEPOやアドバイザー、近畿の審査委員等の地域循環共生圏づくりや中間支援機能に係る知見や意見、事例を収集・蓄積し、モデル化や中間支援主体の掘り起こしに活用する。

実施詳細

GEOC が主催する会議等への参加（6回）

GEOC が主催する会議等に参加し、全国の事例や手法を収集して中間支援主体のサポートに活かすとともに、中間支援機能の考察・分析やモデル化に関する知見を蓄積、活用する。

- ・中間支援主体が対象のキックオフミーティング（1回、オンライン、2日程度、5月開催を見込む）
- ・作業部会（2回程度、1回当たり3時間程度、都内）
- ・地方EPO等共有会（1回、3時間程度、オンラインを想定）
- ・地域循環共生圏づくり支援体制構築事業検討会議（1回、3時間程度、オンラインを想定）
- ・成果共有会（1回、都内、2日程度、3月開催を見込む）

仕組みの意見交換

モデル化

次年度事業の参加団体の審査委員会運営業務

有識者4名程度による審査委員会を開催し、次年度の地域循環共生圏に係る事業の参加の採択について検討を行う。

30

実施内容

身近な自然資本の活用に関する意見交換会（2回）

自然共生サイトなどの自然資本について、地域の行政やNPO等と連携して地域貢献や生物多様性の向上の好事例を学び合うことと、ネイチャーポジティブ経営への取組につなげることへのきっかけとするとともに、ネットワーキングを促進する。さらに、自然資本の活用に関わる地域循環共生圏構築に向けた地域の発掘、伴走支援に繋げる。

実施詳細

第1回 講座「(仮)地域社会と取り組むネイチャーポジティブ」

【実施時期】9月の平日・14:00～17:00

【内容】

- ・講演（30分）道家 哲平 氏（NACS-J）
- ・事例発表 2件（各15分）自然共生サイト認定地
- ・話題提供（10分）JEAS加盟企業より
- ・トークセッション、質疑応答（30分）
- ・参加者同士の対話（40分）

先進事例の紹介

中間支援主体の掘り起こし

【参加者】40名程度、参加者公募形式

自然共生サイト担当者（優先的に広報）、これからネイチャーポジティブに取り組もうとする又は既に取り組んでいる企業、JEAS会員、行政など

【開催地】未定（大阪市内）

第2回 講座「自然共生サイトの創り方」

【実施時期】10～12月の平日・1日

【内容】

- ・自然共生サイトの現地案内
- ・サイト管理手法の体験、質疑応答
- ・「持続可能な自然共生サイトにするには」をテーマに交流会

【参加者】30名程度

自然共生サイトの認定団体及び認定を希望する企業、活動団体

【開催地】自然共生サイト現地（未定）

先進事例の紹介

仕組みの意見交換

パートナー

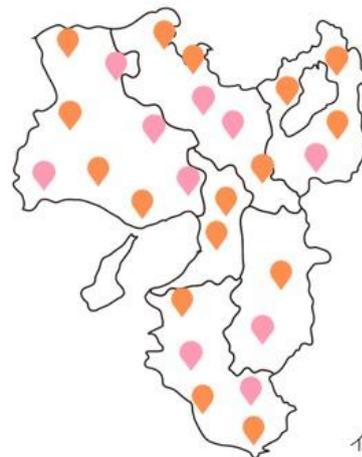
日本環境アセスメント協会（JEAS）

31

実施内容

対面を通しての関係性の構築

- ・地域行脚を通して、地域のニーズの把握やコーディネート機能を有する人や組織の把握をする。
- ・マルチセクターボードを通して、業界関係者との関係性を構築し、その方たちからも、上記の情報を得る。
- ・イベント等を通して、新たな企業や組織、人との関係性を構築する。
- ・相談業務を通して、小さな課題解決から、大きな課題解決まで、様々なニーズに応えることで、信頼を獲得する。
- ・これらを通して得られた人材の情報の蓄積を元に「人材データベース」を更新し、今後の地域支援に効果的に活用する。
- ・業務全体を通して、200以上の新たな人や組織との関係性を構築する。



イメージ図

※3年間続けることで、地域の面的な把握に努める

32

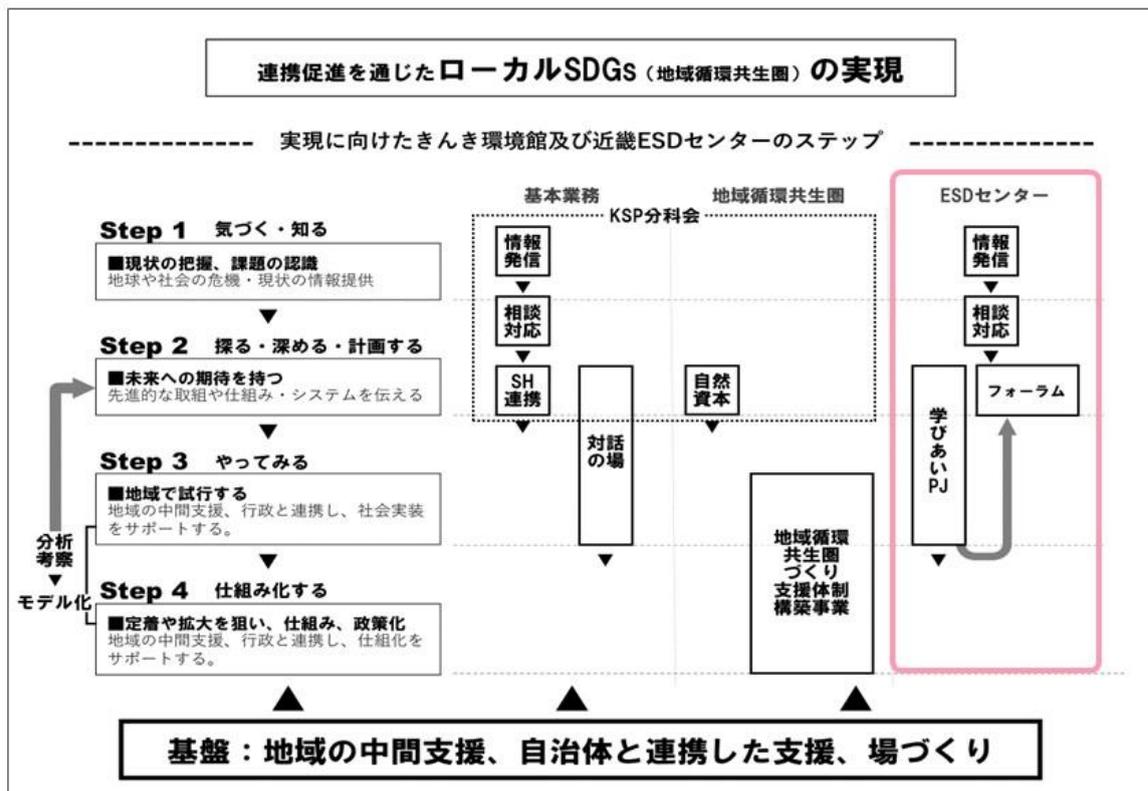
事業内容

本業務の実施にあたっては、幅広い関係者の参画を得て事業を推進するため「近畿ESDセンター企画運営委員会」（以下、「企画運営委員会」）を設置のうえ会議を2回程度開催し、事業実施計画（案）等について議論する。

尾上 忠大氏	公益財団法人吉野川紀の川源流物語 事務局長
上村 有里氏	NPO法人とよなかESDネットワーク 事務局長
来田 博美氏	公益財団法人淡海環境保全財団 キャリアアドバイザー
庄田 佳保里氏	NPO法人いけだエコスタッフ 理事長
中澤 静男氏	奈良教育大学 ESD・SDGsセンター センター長
中島 恵理氏	同志社大学 教授
長友 恒人氏	奈良教育大学 名誉教授 日本ESD学会 初代会長
平井 研氏	一般社団法人加太・友ヶ島環境戦略研究会



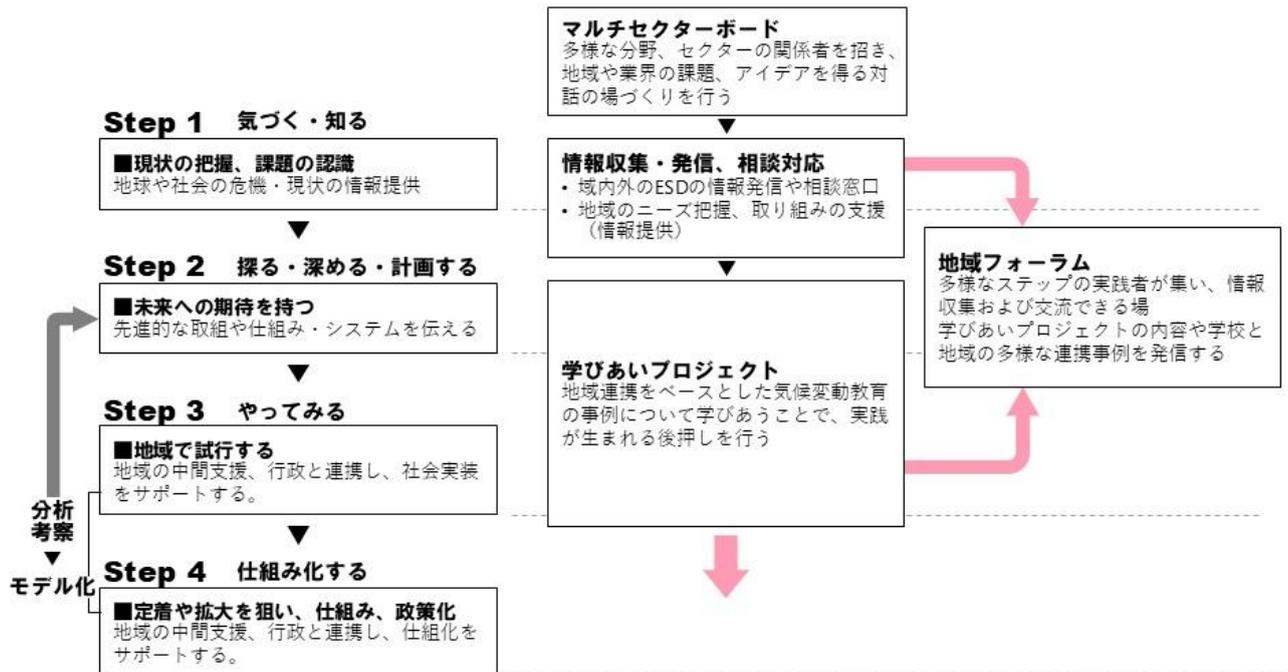
33

「ESDセンター運營業務」の
業務目標（課題、目標、成果指標）

34

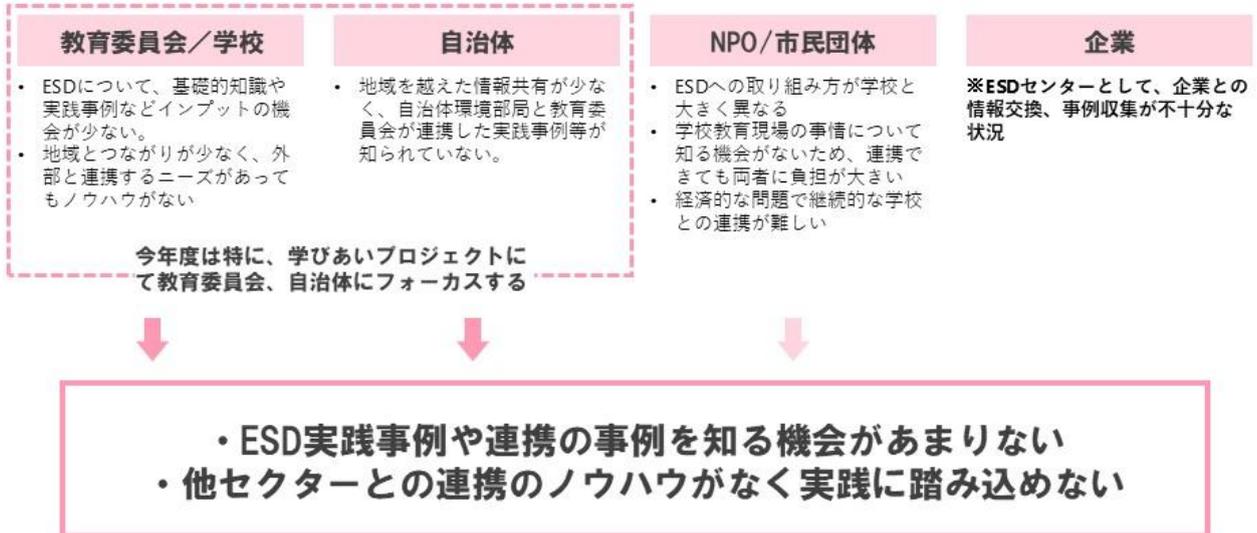
課題	目標	成果指標
情報収集・発信及び相談対応 ・ Webサイトの閲覧者数が少ない ・ 相談案件のその後の進捗確認を含めたフォローアップが不足している	情報収集・発信及び相談対応 ・ 他団体が主催するイベント情報や教材の情報等のESD関連情報も随時掲載する ・ 相談終了後の進捗確認について方策を検討し、試行する	情報収集・発信及び相談対応 ・ 訪問者数が5%増加 ・ 相談対応の事例を発信する ・ 相談終了後の進捗を確認し、2件以上記録する
ESD for 2030学びあいプロジェクト ・ 教育委員会と自治体環境部局の連携の好事例が少ない ・ 令和5年度は、参加者間の共通言語が違い、事例を深掘ることができなかった ・ 教育委員会の指導主事や自治体環境部局は地域を越えた繋がりが希薄で、ESDに関する学びの機会も少ない	ESD for 2030学びあいプロジェクト ・ セクターごとの学びあい、セクター間の学び合いを踏まえて参加者が令和7年度の活動計画を作成することで、実践が生まれる機運が醸成される ・ 教育委員会と自治体環境部局の連携事例を共有することで連携する仕組みづくりの支援と教育現場におけるプロジェクト試行の支援につなげる	ESD for 2030学びあいプロジェクト ・ 気候変動教育における授業づくりに向けた動きが2件確認できる
地域フォーラムの開催 ・ 多様な分野のESD実践者がつながり、情報交換ができる場があまりない	地域フォーラムの開催 ・ 幅広い年齢層の多様なセクターがフォーラムに参加し情報交換できる場を設定する ・ 多様なESD実践者が一堂に会する場となる	地域フォーラムの開催 ・ 20代から60代すべての年代から参加が得られる ・ 地域フォーラムをきっかけとした協働が1件確認できる
地域ESD拠点等の支援及びニーズ把握 ・ 地域ESD拠点と近畿ESDセンターのつながりが希薄でニーズやESD推進拠点としての課題がわからない	地域ESD拠点等の支援及びニーズ把握 ・ 地域ESD拠点との担当者と改めて直接つながることで拠点支援をしやすくする	地域ESD拠点等の支援及びニーズ把握 ・ 地域ESD拠点からの相談対応件数の増加

35



36

以下のような課題があることが昨年度の学びあいプロジェクト、情報収集等を通して確認することができた



37

パンフレットの作成

- 近畿ESDセンターの事業がターゲットに伝わるようにパンフレットを作成する
- ぎんぎ環境館のパンフレットと合わせることで、2つの事業の関係性を認識しやすくする

的確な情報発信に向けた情報の整理及び媒体の選定



38

相談対応

現状

- 令和5年度は令和4年度に比べて大幅に相談件数が増加し、相談対応からイベント参加につながった事例や、行政との連携につながった事例などがあり、丁寧な対応の効果が確認できたが、事後のフォローアップが十分に行えず、相談対応の成果を正確に把握できていない部分がある。
- 令和10年までに、令和4年度比で相談件数を2倍にするという国の基本方針が示されたため、相談件数の増加が必要とされる。

実施内容

■チームでの相談業務の把握
週1回以上の相談業務の内容共有。

■データ等でのカルテの集約
相談内容をカルテとしてデータベース化する。

■丁寧なフォローアップ
相談対応終了後も適宜フォローアップを行う。

マルチセクターボード（2回）

実施内容

多様なセクターの方を招き、課題や取組、トレンドを伺うと共に、近畿ESDセンターに求めるものや、課題解決に必要な支援について議論する。
環境分野以外の分野の取り組みに関する知見の蓄積を目指す。それらを元に効果的な支援方法や各分野とのネットワーク構築につなげ、他企画に生かしていく。

例)

- ①ユネスコスクールの実践事例の共有
- ②国際協力、平和など多様な分野の実践事例共有
- ③ビジネスセクターにおける気候変動教育に関する情報交換

39

・域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供
・全国センターとの連携協力の推進等

①「ESD for 2030 学びあいプロジェクト」の企画等<5回程度>

現状

- 教育委員会と自治体環境部局の連携は、地域での気候変動教育を進める上で重要だということが、昨年度の学びあいプロジェクトからも見えてきたが、連携の好事例が少ない
- 教育委員会の指導主事や自治体環境部局は地域を越えた繋がりが希薄で、ESDに関する学びの機会も少ない
- 昨年度は参加者間の共通言語が違い、事例を深掘ることができなかった

実施内容

指導主事及び学校教員、自治体環境部局を主な対象とし、セクターごとに集まり事例の学びあいを行った上で、参加者が令和7年度の活動計画を作成し、実践が生まれる後押しを行う。

教育委員会（指導主事）と学校教員を対象とした学びあい

指導主事はインプットの場合が少なく、自治体を越えたつながりが希薄。先進事例共有を行うとともに、気候変動教育を実践する上で必要な視点を提供する。

<事例紹介者>
・草津市教育委員会
・奈良市教育委員会

実施日：
第1回 8月19日（月）14時～16時30分
第2回 9月7日（土）14時～16時30分

自治体環境部局を対象とした学びあい

自治体環境部局も地域を越えたつながりが希薄。自治体環境部局と教育委員会が連携した好事例等の共有を行う。

<事例紹介者>
・池田市まちづくり環境部
・城陽市市民環境部 等

9～10月に1回実施を想定

最終回に向けた意見交換

有志の参加者や有識者とともに、これまでの議論や活動計画の作成のために必要なことを整理する
10月～11月に1回実施を想定

令和7年度以降に向けた活動計画の作成

教育委員会と自治体環境部局が交流する場を作ることで連携のきっかけを創出する。
また、先進事例共有を通して学んだことを踏まえて、令和7年度の活動計画を作成する。
実施日：12月26日（木）14時～16時30分

令和7年度 活動計画の実行支援や、実行に必要な教育行政と環境部局のマッチング支援等を行う。

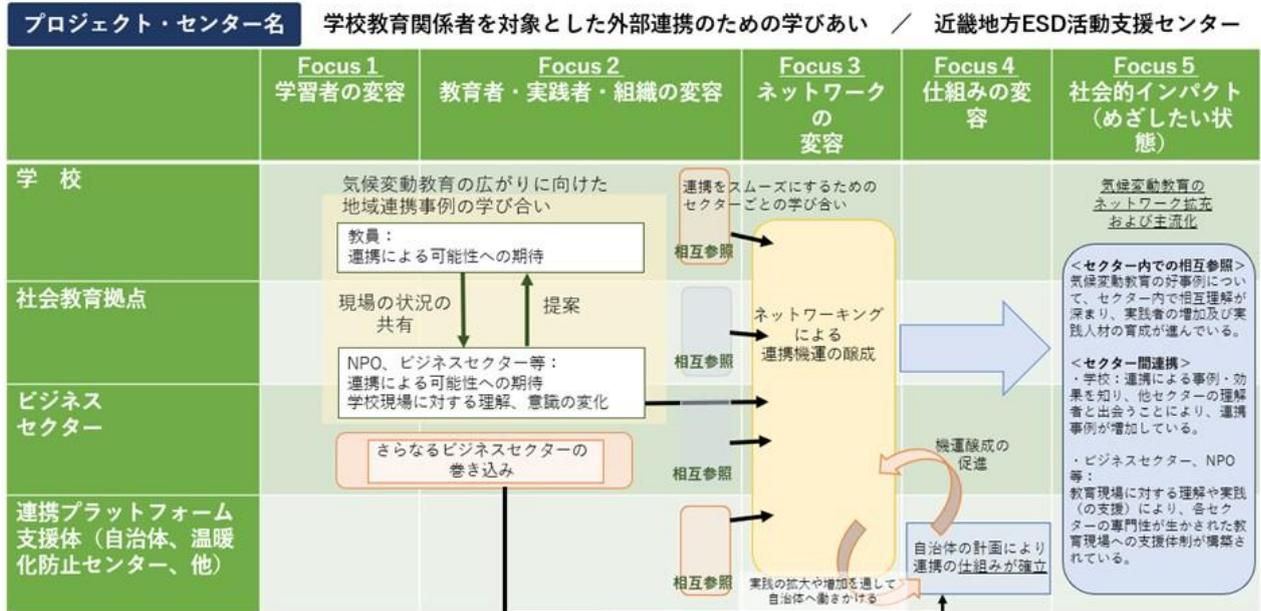
40

②ノウハウの共有と推進に関する方策の検討<年2回>

③活動計画の報告<1回>

全国センターとの連携協力の推進等<6回>

ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式



黄...令和5年度の内容 赤...令和6年度の内容 青...最終的なアウトカム

41

①ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催<1回>

実施内容

近畿ESDセンターの事業の集大成として多様な分野、多世代が交流し協働できる機運を醸成するための場づくりを行う。情報収集や学びあいプロジェクト等でつながった方が一堂に会する機会とする。

【実施時期】2025年1～2月、大阪市での対面開催

【内容】事例共有、多世代かつ多様な参加者によるネットワーク

【参加者】100名程度
 多様なESDを実践する（実践したい）多様なセクターの方

②地域 ESD 拠点等の ESD 活動の支援

③地域で ESD を推進する拠点のニーズ把握<2拠点程度>

実施内容

- 地域で ESD 活動のネットワークを形成していくために、近畿 ESD センターと地域で ESD を推進する拠点の役割分担や連携手法等について、地域で ESD を推進する拠点へのヒアリングを実施する。

【ヒアリング先案】

- ・地域ESD拠点（登録拠点）
- ・環境教育およびESDのネットワーク関係者

42

課題	目標	成果指標
関西SDGsプラットフォーム分科会交流会イベント <ul style="list-style-type: none"> 関西SDGsプラットフォームの会員が各分科会での取組を知る機会がなく、協働のきっかけを創出できていない お披露目会、CN <ul style="list-style-type: none"> 環境省として、近畿圏での自治体や企業における脱炭素に関する取組を発信していくことが求められている 	関西SDGsプラットフォーム分科会交流会イベント <ul style="list-style-type: none"> 参加者が各分科会の取組を知り、分科会への積極的な参加が増える お披露目会、CN <ul style="list-style-type: none"> 適切な運営補助業務を行う 	関西SDGsプラットフォーム分科会交流会イベント <ul style="list-style-type: none"> 分科会を超えた新たなつながりが創出されている お披露目会、CN <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査による参加者の満足度が80%以上

関西SDGsプラットフォーム分科会交流会イベント

関西SDGsプラットフォーム（以降、KSP）の各分科会が活動を推進していく上での問題意識を共有し、SDGsの目標年次2030年に向けてKSPとしての組織のあり方、活動の方向性を改めて吟味し、今後、KSP運営委員会、事務局、各分科会が協力してKSPとしての方針を議論する契機となるようなイベント。（きんぎ環境館は運営協力）

【実施日時】5月29日（水）14:00～16:30

【参加者】80名程度

【開催地】大阪大学中之島センター

【主催】

共同主催：関西SDGsプラットフォーム、「いのち会議」市民部門

脱炭素先行地域@近畿 お披露目会

CN室連携イベント 1回